福井県英語研究会事務局

事務局長　**水　木　　毅**（武生東高校）

１．第１回役員会

令和４年５月６日（金）、福井県国際交流会館で令和３年度会計監査および令和４年度第１回役員会を開催し、総会に提案すべき議事を審議しました。

２．総会・講演会

令和４年６月１０日（金）、ユーアイふくい多目的ホールで福井県英語研究会総会および講演会を開催しました。総会では全ての議案が承認を得ました。

講演会の概要は以下の通りです。

講師：土山 實男 氏　国際政治学者　青山学院大学名誉教授　国際安全保障学会顧問

演題：「日本の生存条件としての国際感覚 ― 福井の先達に学ぶ」

参加人数：５０名

３．会員名簿発行

令和４年７月、令和４年度会員名簿を発行しました。平成２２年度から会員名簿作成業務を広報部にお願いしており、平成２８年度より小学校の英語活動担当者も掲載しています。年度当初の大変慌しい時期に御尽力頂いた島田敏宏広報部長をはじめ、広報部には深く感謝申し上げます。

４．福井県英語教育研究大会

令和４年１０月２０日（木）おおい町立大飯中学校にて開催されました。以下がその概要です。

研究主題：主体的・対話的に課題解決する生徒の育成

～統合的な言語活動を柱とした単元デザインを通して～

内容：公開授業、全体会（研究過程報告、授業研究協議、講評等）　参加人数：９６名

５．英連東海北陸地区英語教育協議会

令和４年１２月６日（火）に開催され、福井・石川・富山・愛知・岐阜・静岡・三重の７県から各代表が参加しました。今年度は福井県が開催県であり、国際交流会館で行われました。本県からは、浅井裕規会長、山口隆子先生、水谷友梨先生、水木毅の４名が出席しました。今年度福井県で行われた東海北陸ブロック英語弁論大会の振り返り等を行いました。

６．第４１回岩崎賞選考委員会

本年度は応募がなく、実施されませんでした。

７．第２回役員会

令和５年１月３０日（月）、国際交流会館にて第２回役員会を開催し、令和４年度事業・決算中間報告、令和５年度事業計画等について審議しました。

県中教研英語部会

会　長　**尾　形　俊　弘**（越前市万葉中学校）

昨年度と同様、「英語で主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養い、聞くこと、読むこと、話すこと［やり取り］、話すこと［発表］、書くことなどの言語活動を通して、コミュニケーションを図る資質・能力を育成するための指導の改善と充実」を研究主題に掲げ、各ブロックや各郡市、各学校で研究実践に取り組んだ。

１　６月２日（木）　第１回県中教研英語部会郡市部長会（書面）

・令和３年度事業報告ならびに令和４年度事業計画
・令和４年度福井県中学校教育研究集会

２　８月１０日（水）　令和４年度福井県中学校教育研究集会（オンライン開催）

・発表者　　安居中学校　森阪美文　教諭
　　国見中学校　河上由香　教諭
　　殿下中学校　石田さゆり　教諭
　　朝日中学校　水野俊子　教諭

３　１０月２０日（木）　県英語教育研究大会若狭大会（集合型とオンラインの併用）

・研究主題　「主体的・対話的に課題解決する生徒の育成」
　　～統合的な言語活動を柱とした単元デザインを通して～
・授業者　　大飯中学校　田中菜央　教諭

４　１０月３１日（月）　第２回県中教研英語部会郡市部長会（オンライン開催）

・令和５年度研究主題の検討
・各ブロック間の情報交換

５　２月２日（木）　第３回県中教研英語部会郡市部長会（オンライン開催）

・令和４年度事業報告
・令和５年度事業計画
・各ブロック間の情報交換

県中教研集会は、運営会場である福井市大安寺中学校に発表者・指導助言者・司会者・記録者等が集合し、参加者はZoomにより視聴した。ブレイクアウトルーム機能を用い、小グループに分かれて意見交換を行うこともできた。県若狭大会では、授業をYouTube Live でライブ中継するとともに、協議会もZoomで行うことができた。コロナ禍のために活動制限はあるが、ライブで授業を参観したり意見交換を行うことができ、貴重な学びの場となった。過去２年間中止していた中学校英語セミナーを、福井地区は半日の集合型で、鯖丹南越地区は自校での集合型で開催できたことも大きな収穫だった。

令和４年度中教研部会郡市部長名及び活動報告

部	部長名	活　動　内　容
福井市部	竹本　俊穂 （大安寺中）	中教研福井ブロック英語部会の活動は、４月の主任会は書面審議としましたが、それ以外の活動はできるだけ新型コロナウイルス流行以前に近い形で行うことができました。１０月には臨時主任会を開催し、次年度以降のサマーキャンプの担当校等について検討しました。また、令和６年度の福井県英語教育研究大会（福井大会）に向けた準備を進めるために、研究推進委員会を開催しました。 【令和４年度活動報告】 ４月　　第１回中教研福井ブロック英語科主任会（書面審議） ６月２０日　前期福井ブロック授業研究会（社中学校） ６月２９日　福井ブロック中学校教育研究集会（オンラインで実施） ８月　１日　福井市英語サマーキャンプ（アオッサ） ８月１０日　福井県中学校教育研究集会（オンラインで実施） １０月１４日　中教研福井ブロック臨時英語科主任会（明道中学校） １１月１４日　後期福井ブロック授業研究会（大安寺中学校） １１月２１日　第１回研究推進委員会（大安寺中学校） １２月２７日　第２回研究推進委員会（大安寺中学校） ２月２１日　第２回中教研福井ブロック英語科主任会（明道中学校）
吉田郡部	南部　和子 （上志比中）	例年通り、小中や中中間で授業参観をして意見や情報を交換することができた。特別な行事はしていないが、３校がお互いに連絡を取り合い、情報を共有したり困ったことがあると相談し合ったりしている。
坂井ブロック（あわら市・坂井市）	田中　月子 （芦原中）	昨年度の学習指導要領全面実施に伴い、一昨年度から授業改善、評価のあり方、年間指導計画の作成等に関する協議を行い、「指導と評価の一体化」について取り組んできた。今年度はそれらをベースとし、デジタル教科書・ＩＣＴ使用も含めた指導のあり方や、その指導が効果的に活かされる評価について学校間で情報を共有しながら研究を進めてきた。 今後も「自分の考えや気持ちを伝え合う生徒の育成」というテーマのもと、各校で授業実践を行い、教師の授業力及び生徒の英語力向上につながるような研究を推進していく。

部	部長名	活　動　内　容
坂井ブロック（あわら市・坂井市）	田中　月子 （芦原中）	≪主な活動内容≫ 5/10　第１回地区中教研英語部会理事会（芦原中学校） 授業改善・学習評価の改善について協議 6/　地区英語セミナー委員会（中止） 7/　地区英語セミナー（中止） 8/10　県中学校教育研究集会参加（遠隔システムで実施） 10/26　第２回地区中教研英語部会理事会（芦原中学校） デジタル教科書・タブレットの言語活動における有効な活用について学習評価（授業中の活動とパフォーマンステスト・定期考査との評価の関連づけ）について情報共有 12/27　地区英語部会特別研究会（遠隔システムで実施） デジタル教科書の活用法についての研修 （講師：兵庫県たつの市龍野西中学校　坂口　万理先生） 2/17　第３回地区中教研英語部会理事会（芦原中学校） 次年度の研究内容、評価との関連等に関する協議
大野市部	広瀬　泰司 （開成中）	研究主題　英語で主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養い、聞くこと、読むこと、話すこと［やり取り］、話すこと［発表］、書くことなどの言語活動を通して、コミュニケーションを図る資質・能力を育成するための指導の改善と充実 4/13　第１回大野市学校教育研究会（学びの里「めいりん」） 分科会結成、研究主題および研究計画、当面する課題についての意見交換 5/10　第２回大野市学校教育研究会 分科会長会、分科会予算配分等（結とぴあ） 6/ 3　中学校教育課程奥越ブロック集会（開成中学校） 令和５年度の発表および夏季英語セミナーについての研究協議 6月　夏季英語セミナー運営研究会（中止） 夏季英語セミナーの企画運営全般についての協議 7月　奥越中学校夏季英語セミナー（中止） 奥越地区の中学校全学年を対象にした英語活動の実施 8/ 2　第３回大野市学校教育研究会（開成中学校） 小中学校合同研修 8/10　県中学校教育課程福井県研究集会（リモート開催） 11/ 9　大野市学校教育研究会英語部会研究会（開成中学校） 県学力診断テストの結果に基づいた市内中学生の到達度の分析 12/13　２学期授業研究会（尚徳中学校） 1/31　３学期授業研究会（開成中学校） １学期、２学期　大野高校互見授業（大野高校） 大野高校教員による英語授業の参観と指導方法の協議

部	部長名	活　動　内　容
勝山市部	石倉　玲子 （勝山北部中）	来年度の県中教研の発表に関連して、研究主題を『単元を貫く問いを柱にした指導の改善と工夫』と設定した。重点研究事項として①書くこと・話すことについて、自分の言いたいことを適切に正確に output するための指導。②教科書にある point of view の効果的な指導。③教科書を有効に活用するための、効果的な発問の工夫。の３点を中心に実践を進めた。 （１）勝山市学校教育研究会英語部会年間活動 ６月３日（金）　奥越ブロック英語部会　於：大野市開成中学校 ・県中教研の研究主題についての討議。 →勝山市と大野市で研究主題を共有して研究を進める。 ・指導と評価についての意見交換 ・セミナーについて。(今年度は実施しない) ８月８日（月）　勝山市中学校英語部会　於：勝山南部中学校 ・２学期中間テスト問題検討会 １０月６日（木）　２学期中間テスト問題最終検討会 １０月２０・２１日　勝山市２学期中間テスト共通問題実施 １月下旬　授業研究に関わる指導案検討会 ２月　　授業研究会と今年度の振り返り （２）今後の取り組み 令和５年度県中学校教育研究大会での発表に向けて、研究主題に沿った準備を進める。小中高を通して指導の連続性・一貫性を高めるため、小中連携、中高連携を進めていく。
鯖江市部	吉村　治基 （中央中）	研究テーマ「自分の気持ちや考えを意欲的に伝え合う生徒の育成」のもと研究実践に取り組んだ。実践にあたっては、５領域を効果的に関連付けた統合的な言語活動を通した、コミュニケーションの資質・能力のバランスのとれた育成をすること、及び、互いの考えや気持ちを英語で伝え合うことを重視した指導法について重点的に研究を推進した。また、研究推進の留意事項の主なもの一つとして、学校種間の学びの接続が円滑なものとなるよう、小中連携、中高連携を挙げた。学習指導要領が改訂に伴い、毎年、小学校での学習履歴が異なる新入生を迎えていることから、特に小学校との連携の強化に努めている。 （１）研究実践　市授業研究会　中央中学校　大正愛佳教諭・ALT ６月６日（月） １年　Unit 2 Our New Teacher コロナ感染防止のため、授業はオンラインで市内全小中学校へライブ配信した。授業後は Teams で参加者をつなぎ、遠隔で授業研究会、及び情報交換会を行った。

部	部長名	活　動　内　容
鯖江市部	吉村　治基 （中央中）	（２）小中連携　小中における授業研究の案内を市内全ての小中学校に送付し、小中の教員が合同で英語指導に関する研究協議を行った。 市授業研究会　片上小学校　本田　祐紀　教諭・ALT １１月７日（月） ３年　Unit6　ALPHABET （３）丹南ブロック英語セミナー 事務局より提供されるプログラムを用い、夏季休業や９月中に各校で開催する形をとった。自校開催のため、生徒は参加しやすく、また、指導者や生徒同士がなじみやすく活動に取り組みやすいなどのメリットがあった。しかし、他校のALT や生徒と様々な活動を通して英語を用いて触れ合う貴重な機会を惜しむ声もあった。 タブレットの機能を活用した授業実践が進んでいる。今後、外国語教育における、ICT を活用した一人ひとりのペースに応じた「個別最適な学び」と、子ども同士が対話などを通じて学びあう「協働的な学び」を一体的に充実させる取り組みを一層推進していく必要がある。
丹生郡部	佐々木理恵 （宮崎中）	丹生郡英語部会は、郡（越前町）内４校の英語科教員で構成される。本年度は、「話すこと（やりとり）」に焦点をあてて研究を進め、朝日中学校の実践内容を共有し、他校の授業も参観しながら、授業力の向上を図ってきた。また、中高一貫教育を進める丹生高校とも連携している。 【おもな活動】 ４月１８日（月）第１回丹生郡英語部会 ・中教研発表に向けて ・英語部会の年間計画について ５月３１日（火）朝日中学校授業参観 ・Teams のブレイクアウトルームを活用した他校との交流 ・既習表現を使って相手のことを知る。 ・ジェスチャー、あいづち、プラス１question で、話を広げ、即興の会話を楽しむ。 ６月２９日（水）第２回丹生郡英語部会 ・中教研発表資料の検討 ・話を膨らませるための工夫について ・タブレットの活用（音読、交流、他）について

部	部長名	活　動　内　容
丹生郡部	佐々木理恵 （宮崎中）	・チャット活動について ・ALT の活用（言語活動に主体的に取り組む生徒は育む）について ・評価について ７月２１日（木）鯖丹・南越ブロック研究集会（オンライン） ・発表　朝日中学校　水野俊子　教諭 ・運営　鯖丹ブロック ・会場　宮崎中学校 （各学校の指導主事訪問日）　英語部会員が英語の授業を参観 ２月１７日（金）第３回丹生郡英語部会 ・各中学校の授業参観を終えて ・郡市部長会の報告
越前市・南条郡・今立郡部	尾形　俊弘 （万葉中）	**1　活動概要** ○授業研究会は年３回、越前市では万葉中および武生二中坂口分校、南条郡・今立郡では池田中で実施されたが、新型コロナ感染予防のため、各校１名の参加に絞った。公開授業と研究会を通して活発な意見交換を行い、授業力の向上を図った。なお、南越地教委連管内研修として、南越前中が公開授業を実施した。 ○夏季休業中には、英語教員研修会を実施し、・今まで授業で実践されたタブレットを使った「意見、考えを表現する活動」をグループ内で紹介　・割りふられた教科書 Unit の「意見、考えを表現する活動」をグループで考え、発表　・教科指導員の先生からの高評、連絡　を行った。他校の実践を知ることができ、有益な研修になった。 ○丹南ブロック英語セミナーは、南越地区の教員が事務局とセミナー委員長を担当した。当初、武生第三中学校を会場とする予定だったが、新型コロナ感染防止のため、会場を各中学校に変更し、自校の生徒とＡＬＴ・ＪＴＥとで実施した。セミナー委員が立てた活動原案をもとに、ゲーム・クイズ・ディスカッション・ポスター作り・留学経験者との交流等、各校独自の活動も取り入れ、有意義な体験ができた。各中学校ごとの参加生徒人数は210名あまりにのぼった。 **2　活動実績** ４月１３日　第１回英語科主任会（万葉中） ６月１４日　第１回英語科授業研究会（池田中　山岡教諭） 夏季休業中を中心に　丹南地区英語セミナー（各中学校）

<table>
<tr><th>部</th><th>部長名</th><th>活　動　内　容</th></tr>
<tr><td>越前市・南条郡・今立郡部</td><td>尾形　俊弘
（万葉中）</td><td>７月２１日　中教研鯖丹南越ブロック研究集会（オンライン形式）
７月２６日　南越ブロック英語科夏季研修会
８月１０日　県中教研研究集会（オンライン形式）
１０月２５日　第２回英語科授業研究会（万葉中　宇原教諭）
第２回英語科主任会
１０月２８日　第３回英語科授業研究会（武生二中坂口分校　中尾教諭）
１１月１６日　南越地教委連管内英語科授業研修
（南越前中　加藤教諭、宇原教諭）
令和５年２月２８日　第３回英語科主任会（万葉中）

３　成果と課題
「英語で主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養い、聞くこと、読むこと、話すこと［やり取り］、話すこと［発表］、書くことなどの言語活動を通して、コミュニケーションを図る資質・能力を育成するための指導の改善と充実」を研究主題に掲げ、各学校レベルで実践研究を進めるとともに、ブロック全体として夏季研修会を通しタブレットの活用や指導と評価の一体化について共通理解を図ることができた。
昨年度同様、新型コロナの影響で様々な制限がある中、電子メールでの情報交換と密を避けた研究会等の実施等により、地区内の全中学校が連携して実践研究を進めることができた。</td></tr>
<tr><td>敦賀市部</td><td>浜上　千恵
（角鹿中）</td><td>１　活動概要
今年も、集合型の研究を行う回数は減ってしまったが、部員で「こういう研究をしていこう！」と決めたことについては、各校の教科主任を中心に、同じ方向を向いて研究を進めることができた。特に次の４点については、計画的に取り組むことができ、そのふり返りも、全体で共有することができた。

阿野幸一先生による研修会
１　新教科書についての理解を深める。
２　評価についての研修を行う。
３　ALT との連携を深める。
４　ICT を活用した授業
しかしながら、研究の柱としていた
A「思考力・判断力・表現力」を身につける言語活動に焦点を当てること
B「読む力～読解力～」に特化した学習システムの構築を図る。
の２点については、深めることができなかったので、次年度に向けて、再度取組の方法や時期を検討していきたい。
○上記１、２については、１２月５日（月）、敦賀市教育委員会より後援をいただき、文教大学教授でいらっしゃる阿野幸一先生にお越しいただき独自の</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>部</th><th>部長名</th><th>活　動　内　容</th></tr>
<tr><td>敦賀市部</td><td>浜上　千恵
（角鹿中）</td><td>研究会を開催した。市内英語科部員に加えて、ALT も参加して実施した。さらに、阿野先生には模擬授業もしていただき、部員一同、大変有意義な研修を行うことができた。特に、教科書について分かっていなかったことや指導法を提示していただけたことが参考になった貴重な研修となった。
○上記３、４については、粟野中学校で ICT を利用した英語授業を公開、その後の省察も部会内で行った。また、例年 ALT がメインとなって取り組んでくれている“Christmas Carol”も、継続して行うことができた。１２月１４日（水）～１６日（金）の３日間、新しく敦賀市に赴任した新しい ALT にも参加してもらった。新たな風を感じたひとときだった。

ALT クリスマスキャロル
２　活動実績
５月１６日（月）…年間活動計画など協議及び役割分担
６月２０日（月）…研究計画・タブレット学習
１０月１７日（月）…研修会報告・今後の取組について
１２月　５日（月）…研修会「阿野幸一先生」
１２月１４日（水）～１６日（金）…市内 ALT によるクリスマスキャロル
２月２０日（月）…反省とまとめ　次年度への課題と提言</td></tr>
<tr><td>三方郡・三方上中郡部</td><td>百田　忠嗣
（三方中）</td><td>美浜中学校、三方中学校、上中中学校では、美方高校への連携クラスを中心に、美方高校教員による乗り入れ授業や集中講義などを行っている。連携クラスでは、高等学校での英語学習への橋渡しを念頭におきながら、文法指導や言語活動などをバランスよく行った。また、高校１年生が来校し、中学生と交流できたことで、両者にとって刺激を受ける機会となり、学びが深まった。
１２月１日には４町（美浜・若狭・おおい・高浜）７校が参加する中学校教科教育研究会の東ブロック（美浜・若狭）の研究授業を三方中で行った。次年度は、美方高校との連携だけでなく、町内の小学校との連携や中学校間の連携にも力を入れていきたい。
【令和４年度活動報告】
５月　中高一貫教育連携クラス年度初め打ち合わせ会議
三方中、美浜中に美方高校職員による授業開始
６月　第１回中高一貫研究委員会
９月　三方中、美浜中に美方高校職員による授業再開
１２月　嶺南４町中学校教科教育研究会
連携クラス教科担当打合会
３月　第２回中高一貫研究委員会</td></tr>
</table>

部	部長名	活　動　内　容
小浜市・三方上中郡部	窪田　朋亮 （上中中）	これまで、若狭地区４町（美浜町、高浜町、おおい町、若狭町）は、４町内の７中学校（美浜、高浜、内浦、大飯、名田庄、三方、上中）による中学校教科教育研究会内で授業研究を進めてきた。同時に若狭ブロック（小浜、小浜第二、高浜、内浦、大飯、名田庄、上中）の７校による若狭地区中教研英語部会を組織し、英語セミナー等を実施してきた。 令和２年度より、これまでの研究組織を活かしながら、令和４年度の福井県英語研究大会若狭大会に向けて、若狭ブロック（高浜、内浦、大飯、名田庄、小浜、小浜第二、上中）の７校で授業研究を進めてきた。 今回の研究大会では県内の小中高・教育関係者８２名の参加を得た。全体会では、嶺南教育事務所の辻真知指導主事より、「CAN-DO リストの活用」「デジタル教科書の活用」「言語活動を通して資質・能力を育成すること」についてお話をいただいた。これからの指導の参考となる示唆に富んだ内容であった。今後も若狭ブロックの会員一同、先に述べた課題と展望をもとに、持続可能な研修を心がけ、授業改善を進めていきたい。 【令和４年】 7/ 1　４町中学校教科教育研究会兼 第1回若狭地区中教研英語部会（内浦中学校） ※リモートと現地でのハイブリッド開催 ・授業研究会 3年生 Unit 3 Animals on the Red List 内浦中学校　福井 みどり 教諭 ・若狭地区中教研英語部会「授業の方向性」「研究大会の内容」について 7/13　第2回若狭地区中教研英語部会（大飯中学校）※リモートと現地でのハイブリッド開催 ・授業研究会 3年生 Unit 3 Animals on the Red List 大飯中学校　田中 菜央 教諭 ・若狭地区中教研英語部会「授業の方向性」「研究大会の内容」について 7/27　第3回若狭地区中教研英語部会（大飯中学校） ・「実施要項について」「開催方法について」「各部による協議、打ち合わせ」 8/23　第4回若狭地区中教研英語部会（大飯中学校） ・「オンライン配信のリハーサル」「当日の役割分担について」 9/ 8　若狭地区中学校教育研究会（福井県教育庁嶺南教育事務所） ・指導主事による指導案への指導助言 9/15　第5回若狭地区中教研英語部会（名田庄中学校）※リモートと現地でのハイブリッド開催 ・授業研究会 1年生 Unit 5 A Japanese Summer Festival 名田庄中学校　正木 由香里 教諭 ・若狭大会に向けての指導案最終検討 10/4　第6回若狭地区中教研英語部会（小浜第二中学校）※リモートと現地でのハイブリッド開催 ・授業研究会 3年生 Unit 5 A Legacy for Peace 小浜第二中学校　塚本 高広 教諭 ・若狭大会に向けて各部にて最終検討

部	部長名	活　動　内　容
		10/19 福井県英語教育研究大会 若狭大会の前日準備（大飯中学校） 10/20 福井県英語教育研究大会 若狭大会（大飯中学校）※リモートと現地でのハイブリッド開催 ・授業研究会 3年生 Unit 5 A Legacy for Peace 大飯中学校　田中 菜央 教諭 ・全体会　講評　嶺南教育事務所　辻 真知 指導主事
大飯郡部	仲野比佐代 （高浜中）	本年度は、「令和４年度　福井県英語教育研究大会（若狭大会）」の実施にあたり、授業研究とこれまでの研究のまとめ、大会の運営に取り組んだ。昨年度より、授業研究部、研究紀要部、事務局という３つの組織を編成して準備を進め、さらに、本年度に入ってからは授業配信チームを立ち上げ、必要な状況に対応した。 「主体的・対話的に課題解決する生徒の育成～統合的な言語活動を柱とした単元デザインを通して～」という研究主題のもと、全ての学校で授業を公開して研究協議を重ねることができ、ひとりひとりの教員にとって大きな刺激と喜びのある学びの場となった。 また、授業のオンライン配信以外にも、実践記録やデータの蓄積・やりとりにクラウドを活用したり、研究紀要をデータ化して配布するなど、新しい時代に合わせた持続可能な研究大会の形態としてもひとつの提案ができたのではないかと考えている。

県高教研英語部会・県高文連英語部会

代表理事　**水　木　　毅**

1．令和３年度高教研・高文連英語部会役員

部 会 長　　浅井　裕規　（鯖江高等学校長）
副部会長　　磯野　和之　（武生高等学校教頭）
代表理事　　水木　　毅　（武生東高等学校教諭）
※　高教研英語部会は、加盟校英語科主任の先生が理事となっています。
庶　　務　　水谷　友梨　（武生東高等学校教諭）
会　　計　　水木　　毅　（武生東高等学校教諭）
事 務 局　　武生東高等学校
〒 915-0004　越前市北町 89-10
TEL：(0778) 22-2253　　FAX：(0778) 22-2259

2．予算執行

〔高教研〕　本部より英語部会に 160,500 円頂き、県英語教育研究大会の運営費や、『会報』の印刷費に充てました。

〔高文連〕　本部より英語部会に 187,000 円頂き、高校英作文コンテスト（93,000 円）・高校英語弁論大会（94,000 円）の運営費に充てました。

3．高教研英語部会理事会

令和４年５月６日（月）、武生東高等学校で行いました。令和３年度事業報告・決算報告、令和４年度事業計画・予算案を審議し、高教研大会・英語教育研究大会の延期に伴う発表校ローテーション等を確認しました。

4．高教研英語部会総会

令和３年６月１１日（金）、ユーアイふくいにて予定しておりました総会も、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止され、審議事項について書面による決議が行われました。令和２年度事業報告・決算報告、令和３年度事業計画・予算案を審議し、高教研大会・英語教育研究大会の延期に伴う発表校ローテーション等を確認しました。

5．福井県高等学校教育研究大会　英語部会

令和４年８月２３日（火）、アオッサ県民ホールにて行いました。

大会主題　「一人ひとりの個性が輝く、ふくいの未来を担う人づくり」を進めるため、「主体的・対話的で深い学び」を教科・科目の指導において、どのように実現すればよいか。

部会主題　外国語によるコミュニケーションを通じて「主体的・対話的で深い学び」を実現し、「一人ひとりの個性が輝く、ふくいの未来を担う人づくり」につなげるためには、どのような指導を行うとよいか。

発表者：　三仙　真也（藤島高校教諭）
長谷川麻紀子・澤田　則義（羽水高校教諭）

令和４年度　福井県高等学校教育研究大会　英語部会　記録

【発表１】藤島高校　三仙真也先生

「授業改善と評価法検討をすすめ、『合科』的視点から主体的・対話的で深い学びを実現」

１．はじめに
（１）参加者全体への問い
・「私たちは「英語の授業」を通じて自校の生徒をどのように育てたいのか？」
・「私たちは「英語コミュニケーション・論理・表現の授業」を通じて自校の生徒をどのように育てたいのか？」
・「私たちは「英語＋他教科の授業」を通じて福井の生徒をどのように育てたいのか？」

（２）研究主題について
「外国語によるコミュニケーションを通じて主体的・対話的で深い学びを実現し、一人ひとりの個性が輝く、ふくいの未来を担う人づくりにつなげるためには、どのような指導を行うとよいか」　→　21 世紀型能力をどのように育成していくか。

（３）学校概要
・150 年以上の歴史と伝統　・SSH 指定校
・海外進学等にも対応。文理を融合した学びをすすめている
・豊かな教養、表現力、思考力、意欲的に取り組む生徒の育成を目指す
・英語科教員は 12 名　・３年生は 10 クラス（各クラス 30 ～ 35 名）
・３年生に教科担当として携わる教員は９名

２．“現状”の分析と藤島高校英語科としての考え
新学習指導要領と「現状」分析
・コロナ禍が「より高度な言語能力」を要求（オンラインでさまざまなことが行われるようになった今、コミュニケーションはどんどん難しくなってきているように思える）
・「主体的・対話的」で「深い学び」
→合科的 input を取り入れ、「知的に楽しい」「既存の概念を揺さぶられる学び」が重要

→教科内および教科間の連携が必要

・課題：指導ノウハウの共有、評価方法の吟味、活動時間の確保
対応策：評価方法の変更、授業互見をすすめる、外部有識者からの助言、「活動」の定義と重要性の理解、教員間で共通認識をもつ

・目的・場面・状況を明確にして指導・評価を設計することが必要

・大学入学共通テストでは「多種多様な素材を」「目的に応じて」読んだり聞いたりする力が問われている

・「目標」の達成と具現化　→　教師による段階的で適切な「支援」の必要性

３．英語科としての取り組み

受験対策から知的な豊かさを求める学習への転換

・文理の垣根を超えた、教科横断型学習

・英語を話す必然性を常に持たせ、「活動だけでなく学びある授業づくり」を行う
→論理的思考力と表現力を培い、結果として受験に対応できる学びを目指す
→ただ「楽しい」ではなく、「知的に楽しい」授業をつくる
（潤沢なアウトプットと、既存の概念を揺さぶられるような多観点のインプット）
→意見交換・対話・自分の考えの客観視は不可欠

①授業改善の取り組み

（１）Pre / Post Reading : 教科書の文章を「資料」にして、自分の考えを述べる

学年で共通の教材は「Pre / Post Reading worksheet」のみ。最初と最後の活動のみを共通化。Can-Do Statements を設定し、育成したい生徒像を念頭に置いている。追加読み物：チェックは ALT（JTE）。添削は JTE（コミュの教科担任）。

Pre-Reading　：自己関与度の高い問いを設定。レッスンの題材を考える上での方向性や、既存の知識や経験を用いて答えることが可能になる。

授業中の活動例：Inferential な問いを与えて、教科書本文に戻らせている。
教科書を何度も振り返って読む必要性を設定し、「読み直す」工夫を
対話を通じて「深い学び」へ

Post-Reading　：本文の要約＋本文のテーマに沿った自由英作文
評価項目を事前提示することもある。
書いた後に生徒同士で読み合うことも多い。→ minor error への気づき
最終ドラフトを提出し、学期末の（持続的な）評価へ：提出枚数の評価

（２）ALT（2 名）の業務「TT の授業」「添削」「スピーチ指導」「部活動指導」

TT の授業　：年間スケジュールから、英コミュ・コミュ英・英表・論表の授業への波及
普段から生徒に「英語での意見を言わせる」
１年１学期スピーチ → ２学期プレゼン → ３学期ディベート（即興型）
２年１学期ディベート → ２学期ディベート（即興型）
ペアワークを繰り返す中で、意見を論理的に組み立てて話す力を身につける。

（３）ディベートの有効性： 語彙力の増強

・自己関与度を高めて取り組むことができる。

（見通し、波及効果、自分の考えのエビデンス）教科書をエビデンスとして読ませる。

（資料より）・自分の考えを客観視し、深化できる

・エッセイライティングでのディスコースマーカーの使用や考えの対比において、

有効な語彙使用ができる。（つなぎ言葉など。他者性を意識したライティングができる）

→　Word Level Checker を用いた分析／学年全体でもかなりの伸びがあった。

（資料より）・発信語彙を増やすよう工夫できる

②新学習指導要領における新たな取り組み

（１）教科書「で」どのような学びを行っているか省察

・教科横断的内容を促進　・生徒同士の話し合いを促進

→　Can-Do Statements の改訂（社会性や国際性など、高次の視点をもたせたい）

（２）パフォーマンステストの実施と検討

・音読テスト評価の改訂　・パフォーマンステスト（ルーブリックの一部改訂）

（３）評価（知識・技能／思考・判断・表現／主体的に学ぶ態度）のありかた（継続検討）

・考査、パフォーマンステスト、アンケート（自己省察）等を持続的な形で実施

（４）外部招聘事業（学力向上事業を通じて）

・授業を通じて生徒を支援・指導していくことを目指している

③他教科との「合科」的視点

（１）教科横断

（例）現代社会（社会保障制度について）：

現社の授業で背景知識を得て、英語の授業でディベートを行う

生物（遺伝子組み換えについて）：

デザイナーベビーや遺伝子組み換えなどのテーマを英語の授業で扱う　など

（２）学校設定科目「研究」での学び

→多くのところで英語科の教員がかかわっている。

（例）・サイエンス・ダイアログ（英語で研究者からレクチャーを受ける。

質疑応答を行い、多様な分野への視野を広げ興味関心を高める）

・エンパワーメントプログラム（海外から留学生を招き、英語によるディスカッション

を通じて国際性や社交性・主体的発信力を育成）

・Global challenge program を通じたリーダーシップ育成

・研究Ⅰ～Ⅲの指導、英語学や英文学の講座

４．今後の課題

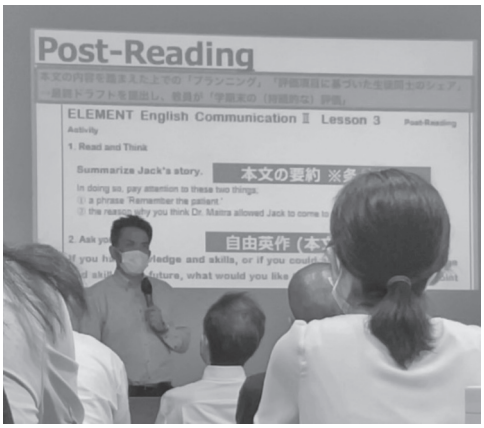
・「縦長」の学力層への柔軟な対応

・評価についてのさらなる検討

・持続可能で普遍性の高い評価

・適切な「波及効果」

・英コミュと論理表現のさらなる連携



【質疑応答】

Ｑ：ディベート導入前と後の比較をするための分析ツールとして、Word Level Checker をなぜ使っているのか。どのように使っているのか。また、Word Level Checker を使う上での留意点はあるか。（羽水高校）

Ａ：語彙の深まりをみるために、大学の先生と相談して使い始めた。しかし、語彙の深まりといっても様々な観点があるため、特定の指標で測るのは難しい。このシステムは、全部ライティングを打ち込む必要があるので大変。GTEC を活用して伸びを検証していくことも考えている。

Ｑ：ディスコースマーカーを多く使う、使用語彙が多くなるなど、語彙の深まりの定義は色々あると思うが、どう考えているか。（羽水高校）

Ａ：「深まり」という点について、単純に語彙の指導という観点からこの指標を使ってみとるのは難しい。どのような評価指標が良いかを、生徒と教員双方で考えていくことが重要である。（藤島高校）

【発表２】羽水高校　長谷川麻紀子先生・澤田則義先生

「生徒の学びに向かう主体性を育む授業を目指して」

１．羽水高校の特色について

（１）羽水高校について

創立 60 周年／探究特進科・普通科／生徒数 878 人（８クラス×３学年）

（２）学校教育目標：これからの社会を生き抜く力「USUI 7」の育成

（①自己肯定感　②傾聴力　③省察力　④協働力　⑤課題発見力　⑥課題解決力　⑦市民性）

（３）近年の沿革（探究活動を中心に）：全校体制で探究的な学びに取り組む学校へ

H28　日本イノベーション教育ネットワークへの加盟

課題解決型学習モデル開発事業（福井県）指定

→　課題解決型学習（PBL）に取り組み始める

H30　香港 The ELCHK Yuen Long Lutheran Secondary School と姉妹校提携

→　国際的な探究学習の充実を図る

Ｒ１　学校教育目標として「USUI7」設定

→　各教科や学校行事でも資質・能力の育成を図る

Ｒ４　探究特進科（１クラス 35 名）設置　２学期制の導入　「ASU（After School Usui）」の時間を設定　→　さらなる探究的な学びの充実を図る

※ ASU（After School Usui）：週２時間で自分のやりたい学びをデザイン／自主性・主体性
（例）自主学習講座、学び直し講座、発展講座、英検対策講座、面接練習　など

（４）英語科としての授業づくり：英語科全員で授業づくりに取り組む
・Lesson ごとに共通のパフォーマンス課題：養いたい力について共通認識をもつ
各パートは各教科担任オリジナルで実施、それぞれのクラスの英語力に合わせる
・ALT ２名との TT の授業づくり
学年ごとの TT 担当 JTE と ALT との打ち合わせ
教科会の冒頭に ALT からレッスンプランに関する説明→全員で内容確認
・年２回の研究授業：「USUI 7」の修得を目指した授業内容について研究／福井大学などの県内大学から助言者を招いている

２．英語科としての課題設定と具体的な取り組みについて
「USUI 7」の各資質・能力を育成する　→　主体的・対話的で深い学びを実現する
①生徒が主体的に活動に取り組むには？
Chromebook の積極的活用
（実践その１）ロイロノートを用いた音読
目的：生徒それぞれが自分のペースで学習に取り組むことができる
・成績に入れる。生徒に事前にルーブリックを提示。（正確さ・英語らしさ・流暢さなど）
・「通し読みシート」「スラッシュ・リーディング用シート」の２種類
・生徒は「録音用シート」に録音、提出
・教師は提出された「録音用シート」に書き込みをして返却
→　返却後もう一度音読練習
（実践その２）グラフを用いたプレゼンテーション活動
目的：自らの興味・関心に応じて主体的に学習内容を選択する
・自分が紹介したいグラフを用いて説明を練習
（グラフの内容を英語で説明するための表現・構成／複数の視点から内容を分析／自分の立場だったらどう考えるか？）
・活動①　「練習」（個人で練習→ペアで練習→個人で振り返り：異なる読み取り方や言語表現への気づきを促す）
・活動②　「プレゼン」（個人で練習→ペア発表①→ペア発表②：準備と発表の反復で成功体験を積む→ Chromebook 交換→ペア発表③（半即興型）自分が一度聞いた内容を発表。自分の意見も織り交ぜる）
→　主体性・傾聴力・協働力・省察力・自己肯定感の育成
②深い学びにつながる授業をデザインするには？
・Authentic な学び（深い学び）：社会科とのコラボレーション
→学習内容を「自分事」として捉え、思考・判断・表現
→教科・科目の壁を超えた学習をデザイン＝教科横断型の授業づくり

（実践その１）社会×英語 アメリカの共和党 vs 民主党について

・社会では主権者・参政権・選挙制度・時事　について学習（知識を得る）

・英語では ALT の活用（２つの立場からスピーチ。生徒は聞き取って理解）

　→自分が聞き取った内容について共有→議論へ進む

・「自分事」として思考・判断・表現

（実践その２）総合探究×英語：教科書のテーマを探究することで、主体的・対話的で深い学びを促す

・内容理解（要点を絵や図に表し相互で発表。必ず全員が話す）

　→レッスンのタイトルを利用して自分で問いを完成させる

　→設定した問いの答えを教科書や様々な資料をもとに導きだす

　（途中で問いを変えてもよい）

　→グループ発表（教科書本文中の表現を積極的に使わせる／必ず全員が発表する

　／必ず全員が質問やコメントをする　※定型表現を与えておく）

・グループで活動することで、意見交換の場が多くなる→対話的な学び

・扱われているテーマを「自分ごと」と捉えることができる

・問いへの答えを導く過程で、何度も本文を読み変えす

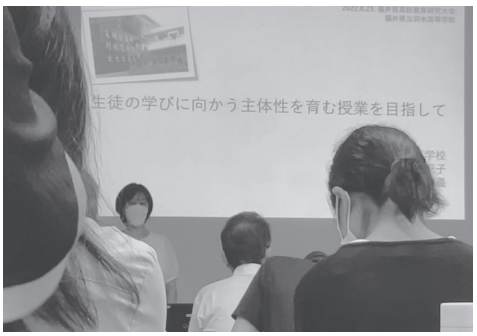
　本文中の表現を使用してプレゼン　→　表現の修得

・自己評価による学びの改善：生徒自身で作ったルーブリックでふり返り

　総合探究で作成→各教科で活用→総合探究で見直し・改善→共有・活用

３．今後の課題

活動を通して資質・能力の育成を図るということが大事であるが、一人ひとりの成長を形成的に見取ることが重要。その中で、教員は生徒の資質・能力の変化をどのように評価すべきか。



【質疑応答】

Ｑ：教科横断型の授業について、社会と英語でどのように時間を振り分けたか。（藤島高校）

Ａ：（時間の持ち方について）公民の時間と連携した。

Ｑ：教員のかかわり方、評価の方法について聞かせてほしい。（藤島高校）

Ａ：（英語教員のかかわり方について）主に ALT がかかわっていた。サポートが必要な生徒には英語教員が対応した。

Ａ：（評価について）どの生徒の発表がいいかを生徒に考えさせた。社会の授業の発展という扱いのため、英語の評価はしていない。

今回の英語部会では、発表校両校や参加者全体への質問が出ました。

【発表校両校の質疑応答】

Q：新しい学習指導要領になっている中で、評価をどのタイミングで行うか。（丹生高校）

A：ライティングやアクティビティの評価は、すぐにフィードバックすることを心がけている。最初に評価基準を明示することは必須。（藤島高校）

Q：定期考査以外のアクティビティなど、発表以外のところも含めてどのような評価をしているか。（丹生高校）

A：パフォーマンステストは、ALT と協力しながら評価を行っている。（藤島高校）
グーグルクラスルームにてライティングを毎回書かせ、添削して返却することで、生徒１人ひとりの思考回路が見えてくる。（羽水高校）
毎レッスンごとにライティングさせ、それを ALT にチェックしてもらっている。

A：現在ポストリーディングを行っている。今後プレライティングもやっていきたい。

Q：自分のクラスで独自に単元テストをやってみたところ、生徒はすごく勉強していた。しかし、部活動や教員の負担などを考える持続性を保てるかどうかが疑問。（丹生高校）

・持続可能な評価を継続的に行うことを意識している。（藤島高校）
・最初に提示した評価形式を通年使用し、生徒の伸びの変化をみている。（藤島高校）
・働き方改革も考慮し、これまでやってきた評価を数値化するという取り組みをしている。（藤島高校）
・セルフチェックリストを掲載することで、スモールエラーが改善されてくる。
・誰の目からみても公平な評価にしていく必要性がある。（羽水高校）

Q：主体的な学び、深い学びの定義について聞かせてほしい。（福井高校）

A：定義づけや共通認識があいまいになることは、授業の根幹を揺るがすため、継続して考えていきたい。（主体的な学びについて）生徒の自己関与度を高めることを意識している。既存の概念を揺さぶられるような学びをさせ、自分が学びたいと思える気持ちを育成していきたい。（深い学びについて）プレライティング、ポストライティングを通じて考えの深まりが自覚できる。また、対話をした結果、自分のこれまでの考えとの違いに気づき、学びが深まる。（藤島高校）

A：AI の時代に人間として何ができるか？ということが分かる生徒を育てたい。（人に言われなくても自分で課題を見つけていくという学びに向かう姿勢）（羽水高校）

Q：他教科との合同は、どこからの発信で行われているのか。それを受けて英語科がどう取り組んだのか。総合の時間に英語科がどう関わっているのか。（武生東高校）

A：今回の実践については、公民の時間で何をやっているかを聞いてそれに類似したトピックを授業で使用した。（藤島高校）

A：研究指定で管理職からの指示で行ったと記憶している。

A：例えばカレーの伝播の話題があったら、植民地支配の歴史などにも触れる。英語の授業は、どの教科の話題にも拡大することができる。（羽水高校）

【参加者全体の質疑応答】

Q：音読の評価はどうしているか？穴うめ音読の試験を行い評価していたが、生徒は発音などにまで気が回らないので、どうしたらよいか。音読を定期的にやっている学校があれば聞きたい。（足羽高校）

A：考査ごとにタブレットに録音して、ALT が評価を行っている。また、生徒にルーブリックも示している。また、やさしめに採点している。（坂井高校）

両校へのご高評

＜総合研究所　髙橋先生＞

・活動がばらばらに行われているのではなく、新学習要領に沿って行われていた。
・「何ができるようになるか」を明確に
・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善
・自らの考えを表現する活動ができている
・レッスンごとに養いたい力を明確化し、教員間で共通認識を持てていた。
・英語を話す必要性を生徒に意識させることが重要
・自分に関わりの強い話題をテーマにコミュニケーション活動をすることで、生徒の関心が高まる。
・データとして生徒の活動ポートフォリオを作成していけるとよい
・生涯にわたって学習に取り組もうとする姿勢の育成

＜県教委　酒井先生＞

・教科書の文章を資料として、自分の考えを述べる活動につなげられていた。
・問いを工夫して教科書を読みなおす活動では、多角的・複眼的な考え方ができるように指導していくことが必要。
・生徒にとって、学びが自分事になっているかどうかを意識してテーマや問いをたてていた。
・文科省は即興性のある活動が不十分だと指摘しているが、福井県では多く取り組まれている。
・３年後、卒業後の姿を意識して指導を行っていたことが印象に残った。各校でも意識していただき、指導計画などを見直していってほしい。
・年間指導計画は作成されているが、十分に活用されていないと文科省から指摘されている。
・パフォーマンステストの目標が明確か、生徒は見通しをもっているか、評価基準は目標に沿っているか、生徒が授業での活動の再現を行うことができるか、テストの後の生徒の学びに繋げられるか、などのことを意識していきたい。
・その単元で身に付けたい力は何か、それを問う考査問題になっているかが重要。
・（考査の設問に関して）言語材料に関するものは「知識・技能」の問いに、全体を読んで思考し判断するような問題は「思考判断表現」の問いに分類。先生方の授業や生徒の様子に応じて作成者・担当者で検討してほしい。

企　画　部

部　長　**西　口　佳　光**（武生高校）
副部長　**内　田　冬　萌**（丹生高校）

●高等学校

第６１回高校英作文コンテスト

期日：９月２４日（土）
会場：各高校
参加：合計 328 名（校内予選を含めると 483 名）
共催：高文連
後援：県教委・福井新聞社

委員長：蔦　　将愛（武生高等学校）

中井　慶子（奥越明成高等学校）
伊藤美智子（足羽高等学校）
蓑輪　和生（武生東高等学校）
松宮　拓哉（若狭高等学校）
百田　貴哉（若狭高等学校）
稲葉百合子（仁愛女子高等学校）
田中　　操（敦賀気比高等学校）

・コンテスト会場を各高校に設けていただきました。ご協力有り難うございました。
・各校の参加者数を制限させて頂いておりますが、それより参加希望者が多い場合は校内選考をされている学校もあります。その際には採点をお願いしておりますが、ご協力に大変感謝しております。

第６２回高校英語弁論大会

期日：１０月１日（土）
会場：福井県国際交流会館
参加：１部 22 名・２部 ７名・３部 ７名
主催：全国英語教育研究団体連合会
　　東海北陸地区英語教育協議会
　　福井県英語研究会
後援：東海北陸各県教委・福井市教委

委員長：笠松佳代子（金津高等学校）

田川真理子（金津高等学校）
竹内　直美（金津高等学校）
青山　秀樹（福井商業高等学校）
吉田　充宏（高志高等学校）
橋本　千宙（羽水高等学校）
内田　冬萌（丹生高等学校）
山口　隆子（武生高等学校）
中内　浩貴（美方高等学校）

・感染症対策をふまえた大会運営にご協力いただき、ありがとうございました。
・第１部の１位と第２部の１位が、第１３回全国高等学校英語スピーチコンテスト東海北陸ブロック大会（福井大会：下記）に出場しました。
・ライオンズクラブによる海外派遣生選考会も兼ねていますが、今年度も海外派遣は中止となりました。代わりにブリティッシュヒルズ（国内の語学研修施設）への派遣が行われました。各部入賞者中の希望生徒に後日面接選考会を行いました。

第１５回全国高等学校スピーチコンテスト東海北陸ブロック大会（福井大会）	委員長：山口　隆子（武生高等学校）
期日：１１月２０日（日） 会場：福井県国際交流会館 参加：14 名（ブロック７県から２名ずつ） 後援：県教委・読売新聞社	笠松佳代子（金津高等学校） 田川真理子（金津高等学校） 竹内　直美（金津高等学校） 青山　秀樹（福井商業高等学校） 吉田　充宏（高志高等学校） 橋本　千宙（羽水高等学校） 内田　冬萌（丹生高等学校） 中内　浩貴（美方高等学校）
・感染症対策をふまえた大会運営に努めました。 ・第１部の１位と第２部の１位が、第１３回全国高等学校英語スピーチコンテストに出場しました。本県代表は惜しくも全国出場を逃しました。	

●中学校

第６５回中学校英語弁論大会	委員長：園井　圭介（三国中学校）
期日：９月２２日（木） 会場：武生商工会議所 参加：41 名（33 校） 後援：県教委・読売新聞社	中島　佑介（灯明寺中学校） 細川　頼久（尚徳中学校） 和田　祐樹（鯖江中学校）
・感染症対策として２部に分けて実施。交流活動は中止しました。 ・上位１名が高円宮杯全日本中学校英語弁論大会（ビデオ審査）に出場しました。 ・今年も多数参加いただきました。熱心な指導を有り難うございました。	

中学校英語セミナー

各ブロックが主催する中学校英語セミナーに対し、企画部から活動の補助を行っています。各地域の特性を生かしたセミナーを実施しています。

主催：福井県中学校教育研究会英語部会
共催：関係市町教育委員会、関係市町中学校教育研究会英語部会、福井県英語研究会
後援：福井県教育委員会

◆高校英作文コンテスト委員会

第６１回福井県高等学校英作文コンテスト

委員長　**蔦　　将　愛**（武生高校）

今年度は、昨年度に続き新型コロナウイルスの影響により、学校での様々な行事が中止となったり、オンラインでの開催となったりしました。英作文コンテストにおきましても、実施に際しましては、事前の検温やマスクの着用を呼びかけていただいたり、教室の換気に気を配っていただいたりと、様々な点でご協力をいただきました。そのような困難な状況の中、おかげさまで何とかコンテストを実施することができました。各学校の先生方をはじめ、関係者の皆様方にまずは心より感謝の言葉を申し上げたいと思います。

さて、今年も語彙力の差によらない生徒一人一人の個性、創造性、独創性で訴えられる作文を書いてもらえるような出題内容に努めました。高校生らしいユニークな切り口の作品や、物事を真剣に考えて意見をしっかりと展開している優れた作品が数多く集まりました。

出題形式別に振り返ってみますと、A 部門では、「10 年後の私」や「これからの学校にあるとよい部活動や学校行事」など、実生活に沿ったテーマに対して、率直に考えや意見を表明している様子が見られました。また一方で、「買い物をするなら実際の店かオンラインか」といったような意見を論理的に展開するようなテーマもあり、四苦八苦しながらも結論に辿り着こうとしている努力が垣間見えました。

Ｂ部門は、今年も読んでいて楽しく、奇抜な発想と豊かな創造力が発揮された優れた作品が数多く寄せられました。美しい景色と駅のホームの絵からは、ある主人公がホームにやってくる電車によって様々な場所へ誘われるといったような、どこか懐かしさを感じるような作品が多く見られました。また、大きな本と女性の絵からは、本を中心とした作品が多く見られました。たくさんの本でできた世界を舞台としたストーリーや、人生を変える本によって様々な出来事に巻き込まれていく人間のストーリーなど、その内容は多岐に渡りました。いずれの絵の作品も、ストーリーがおもしろく、感情移入のしやすい、引き込まれる作品でした。毎年のことながら、Ｂ部門に参加する生徒の発想の豊かさと創造力には感服させられます。

Ｃ部門においては、今日の社会問題について問われた３つの課題について、賛成・反対それぞれの立場から様々な意見が述べられていました。中でも「難民を受け入れるべきか」についての課題は、最近新聞やテレビで取り上げられることが多い話題のためか、そのメリットデメリットについてよく理解した上で意見を述べていることが感じられました。また、「プラスチックごみの削減」についての課題においては、独自のごみ削減方法を分かりやすく説明し、なるほどと思わせる作品がたくさんありました。学校においては、日頃から主体的に深く考えたり、情報を整理して分かりやすく相手に伝えたりするような活動が取り入れられてきているためか、よく練られた具体的な意見の述べられた作品が年々増えているように感じられます。

コンテストの開催におきましては、各校の英語科の先生方には準備の段階から実施、発送にいたるまで多大なるご協力をいただいております。開催の過程で些細なことでもお気づきのことがございましたら、事務局までご連絡ください。今後ともコンテストの発展のためにより一層のご指導をお願いして、今年度の報告にかえさせていただきます。

＜実施要項＞

主　　催　　福井県高文連英語部会
　　福井県英語研究会
後　　援　　福井県教育委員会
　　福井新聞社
　　ＮＨＫ福井放送局
協　　賛　　財）げんでんふれあい福井財団
趣　　旨　　本県高等学校生徒の英語力の向上を図り、その発表力を高めることを目的とする。
日　　時　　令和４年９月２４日（土）
　　午後１時３０分から３時まで
会　　場　　県内各高等学校

＜実行委員＞

【委 員 長】　蔦　　将愛（武生高）

【実行委員】
中井　慶子（奥越明成高）
稲葉百合子（仁愛女子高）
百田　貴哉（若狭高）
松宮　拓也（若狭高）
William Moore（武生商工高）
Aaron Dickson（武生商工高）
Brianna McCulloch（藤島高）
Charley Carroll（小浜中）
伊藤美智子（足羽高）
田中　　操（敦賀気比高）
蓑輪　和生（武生東高）
Simon Woodgett（義務教育課）
Nathaniel Teocson（高志中）
Melba Woodard（足羽中）
Miranda Pasquarella（森田小）
Anthony Kouroupis（小浜第２中）

［入賞者一覧］

		最優秀受賞者	優秀受賞者
A部門	１年	該当者なし	該当者なし
	２年	藤　田　優　弥　（坂　　井）	安　宅　陸　登　（坂　　井）
	３年	冨　田　卓　未　（科学技術）	上　野　胡　桃　（科学技術）
B部門	１年	三　和　ひな佳　（福　　商）	山　口　桂　吾　（美　　方）
	２年	粟　津　　葵　（福　　商）	藤　田　昂　生　（敦賀気比）
	３年	木　水　　茜　（武 生 東）	田　中　千　尋　（武 生 東）
C部門	１年	星　山　琉　音　（敦賀気比）	清　家　直　美　（足　　羽）
	２年	有園ガブリエレ　（足　　羽）	堀　川　春　樹　（武　　生）
	３年	岡　田　真　歩　（仁愛女子）	上　野　芽　依　（武 生 東）

［参加者数一覧］

会　場	１Ａ	２Ａ	３Ａ	１Ｂ	２Ｂ	３Ｂ	１Ｃ	２Ｃ	３Ｃ	合計	校内選考会を含む数
大　　野	0	0	0	3	2	0	0	1	0	6	6
藤　　島	0	0	0	1	0	0	0	2	0	3	3
羽　　水	0	0	0	0	0	4	0	0	26	30	35
福　　商	0	0	0	5	2	0	14	9	0	30	55
仁　　愛	0	0	0	1	0	1	0	0	27	29	29
三　　国	0	0	0	0	4	0	0	3	0	7	7
坂　　井	0	6	0	0	3	0	0	0	0	9	9
金　　津	0	0	0	4	0	0	5	2	0	11	11
科学技術	0	0	3	0	0	0	0	0	0	3	3
足　　羽	0	0	0	10	5	1	5	8	1	30	60
鯖　　江	0	0	0	0	0	3	1	7	19	30	30
武　　生	0	0	0	7	4	0	1	12	0	24	24
武 生 東	0	0	0	2	4	4	4	6	10	30	120
敦　　賀	0	0	0	0	9	0	0	12	0	21	21
美　　方	0	0	0	8	7	0	0	6	0	21	21
敦賀気比	0	0	0	6	8	0	13	8	0	35	40
若　　狭	0	0	0	1	0	0	2	6	0	9	9
合　　計	0	6	3	48	48	13	45	82	83	328	483

［各部門最優秀作品］
２Ａ部門最優秀作品

Me Ten Years Later

Yuya Fujita
Sakai High School

Ten years from now, I think the world is very different. Since the outbreak of the coronavirus, wearing a mask has become commomplace in Japan. If new events occur, society will change accordingly. We must make choices that allow us to respond to these changes. So we have to live with the flow of the times. What kind of job will I have ten years from now?

There are many kinds of jobs, but I want to get a high-income job. Maybe in ten years there will be jobs that don't exist, and there will be new jobs. There are vairous types of jobs that make a lot of money, but there are various examples such as being a president or being an athlete.

When I was little, I longed for a high-income job such as a company president. However, only a handful of people succeed in these jobs, so it's not very realistic. I don't think I have extraordinary abilities.

That's why I thought I should think carefully about my job before choosing it.

In the first place, I don't want my family to worry about work. So ten years from now, I think I'm choosing a realistic job. And I thought it would be nice if I could make time for myself in the time I had after doing a realistic job and live a fulfilling life.

My future self is decided by my past self, so I decided to work even harder for myself ten years from now. I also think it's important to have a solid plan.

Also, I want to repay my gratitude to my family for raising me until now. So, ten years from now, I hope I can return the favor with the money I earned from working. I think there are many ways to give back. I want to convey my gratitude by treating my family with delicious food and taking them on trips.

Will I be a better person ten years from now?

Maybe I'm a worse person than I am now.

don't know what I'll be like ten years from now, but I want to become a better person and enjoy life ten years from now.

３Ａ部門最優秀作品

Politics Club Activities

Takumi Tomita
Science and Technology High School

I think we need a place to learn politics in our schools from now on. But I thought it would be meaningless unless people were willing to learn, so I thought it would be a good idea to create a place in the for of a club activity. Let me tell you why I think it is necessary.

I think the problem in Japan today is that biased in political polices. I will discuss two major issues that I think are problematic.

The first is the lack of an environment in which young people can learn better. Many people want to learn but cannot because university tuition is too high. I think this is to reduce the number of people who might be active in the future.

The second is there are few politicians with a new global minds. This will keep us stuck in the old ways of thinking and it will not lead to the development of Japan.

But it takes knowledge to solve problems. I think that by learning and exploring this thorough club activities, we can lead the development of Japan. If this is realized, it will create a place for the next generation of potential young people to shine.

That's why I think that creating a place to study politics as a club activity is necessary for the schools for the future.

１Ｂ部門最優秀作品

Miracle in spring night

Hinaka Miwa
Fukui Commercial High School

One spring night, old woman found a big book under the cherry blossoms. The book's all pages were blank. Old woman looked that book mare one minutes. Then, some letter emerge from blank pages.

"1967 May 5, a girl was born. Her name is Lisa." The old woman said, "Is this my history?" Then, she decided to read because she is a curious person.

" Lisa loved singing a song. When she sang, many people gathered around her. But one day, a tragic event happened. Her parents died. After that, she can't sing a song. She hate illness that her parents killed."

"No! No! I don't want to read more! stop!" She gave a cry of pain. She remembered her history that she doesn't want to remember. But, letter was increasing. Ten minutes later, all page were filled letters. During ten minutes, she was crying. After that, she read a book again. Her history was very hard, but she enjoyed her life, too.

Finally, she read last page. Last page is different from other pages.

“Dear me live in the future. How are you? I’m very very sad because my parents died. But, I believe that you are ok. Did you married? Can you sing a song again? I want to ask you more, but I don’t have enough time to write letter now. So I’ll send you my message. When you face a problem, I can say ,”It’s all right. You can do it!” If you believe yourself, you can confront anything difficult. Also, you are not alone. You have grandparents and friends! If you sing a song, many people gather around you. Your song has many power. You should have a confidence. I want you to get courage from my letter.”

Then she closed the book. She didn’t cry. She was smiling.

This book’s title is “Her Life”

２Ｂ部門最優秀作品

My precious momories

Aoi Awazu
Fukui Commercial High School

Three years have passed since we graduated from high school. Now, I’m a student at the university in Fukui. I enjoy my college life and I made new friends who go to the same school. I’m so busy as a bee. My old friends are going the university in other prefectures. I miss them sometimes.

I and three girls were friends from junior high school. We were always together. Therefore, we have a lot of memories, but we often quarreled over trifles. This platform that I’m standing now is a place one of the our precious memories. This platform is our school commuting route. We talked anything everyday here. We gas many happy time and loved the platform. I thought that this happy time will continue forever. However, it was wrong.

At that time, we were eighteen years old. The day was a week before the National Center Test for University Admissions. We always be friends again on next day. However, we couldn’t that. Then we graduated from high school. After graduating from high school, we went our separate ways. We haven’t even met since then.

I returned home yesterday, I remember good and bad old days and came this platform. I came here for the first time in three years. I thought the platform will change over time, but it haven’t changed a bit. I was glad and moved to tears by my memories. Then, a woman appeared in front of steps. She was a my old friend. I was really surprised. And people appeared like her. They were two women who my old friends.

We met again after three years and embraced tightly. We have a deep bond of friendship.

３Ｂ部門最優秀作品

My memories of the station

Akane Kimuzu
Takefu Higashi High School

Three years ago, I first met her at the station.

On that day, when I was going to school, I fell asleep in the train. When the train was ready to depart from the nearest station of my school, a girl tapped my shoulder. Thanks to her, I wasn't late for school, but I couldn't say a few words of thanks to her. After school of the day, luckily, I saw the girl at the station, so I spoke to her. "Thank you for this morning! I narrowly late for school." She said, "No problem! I'm glad you are safe." When I watched her hands, she held a book. It is amazing that the book was my favorite one, so we talked about it. Since the day, I run into her a lot at the station or train. I talked with her a lot of things, and we became a close friend. She always ask me about school life, but I didn't ask her about school life because she didn't wear a school uniform. Also, she didn't say a lot about herself. One day, she asked me about my dream. I said to her, "I want to be a doctor. There are many people who is suffering from serious disease. I want to help all of them in the future, so I'm studying very hard now." When she heard my dream, she was close to tears, but I didn't know why she became so. On another day, she looked a little weak, but she said, "No problem! I'm OK!," so I didn't worry about it. Suddenly, she said to me, "I have a wish. Could you hold my hands?" I felt strange, but I held out my hands to her. She squeezed my hand, and she became smile but I felt a little sadness from her. When she left from the station, she dropped her bag of medicine. I thought that I will give it to her tomorrow, but since that day, she've never come to the station. In the bag of her medicine, there was a name of hospital, so I visited the hospital. I asked a nurse of the hospital about her, she became a sad expression and said, "She died yesterday." I couldn't understand what she said. I didn't want to believe it. As the nurse said, she was suffering from serious disease, and her remaining days was very short. Her physical strength was very weak, but she wanted to talk with me, so she came to the hospital by train every day. I couldn't say anything, just cry.

Now, I'm standing at the station. I'm going to go to the college entrance exam of medical school.

I look up at the sky and swear to her, "I become a doctor."

１Ｃ部門最優秀作品

Refugees and Japan

Ryune Hoshiyama
TsurugaKehi High School

Do you agree with accepting more refugees? I agree it from following three reasons.

First, it is good for economics. Lately, Japan is in a recession. Lot of smaller companies are going out of business. To stop more serious depression or the yen's decline, I think we should increase workers. Accepting refugees is easy way to realize that.

Next, it will help Japan's globalizing. From my subjectivity, Japan culture is developing just for Japanese. For example, most of Japan's English learners who can get a good grade on English test, can't speak English a lot. Do you know why? The answer is simple. They only study English for their tests! To globalize Japan education, we need to listen an opinion from foreigner.

Third, developed country like Japan should help the people from developing country. Other two reasons were advantages of accepting refugees, but I think we should think about refugees, not just us. I know it is just my ego, but sometimes the world needs our consideration.

These are my reasons why I think Japan should accept more refugees. I wish world become better place for everyone.

２Ｃ部門最優秀作品

Japan and the Refugee Situation

Arizono Gabriele
Asuwa High School

I think that Japan should let more refugees enter the country. Many people are against it, saying that it could be dangerous letting people from other places enter Japan, or that Japan could become very crowded. However, I think that there are more benefits to Japan, than it does harm to it.

For the refugees, living in Japan can be a life changing opportunity. As they might live in a dangerous country, living in Japan, a country considered safe, makes people's lives better. Also, Japan has a lot of job opportunities, so refugees can get their own money without needing a lot of support from the government.

Japan has an aging population, and its birthrate is very low. This means that as the years pass, Japan loses its workers. According to research, in a few years Japan will need more and more workers, and most of them will come from abroad. This gives Japan an opportunity to include refugees in its population.

Also, if Japan wants to improve its image, letting refugees enter the country is a good way. However, when we talk about refugees, the first thing that comes into our minds is probably people

from Ukraine. I've seen many refugees from Ukraine in Fukui, so it's possible that Japan has no problem with them, while it seems that Japan is reluctant when it is about people of color, such as people from Iraq or Iran. This comes from a stereotype that people from the Orient are terrorists. These types of stereotypes have to end.

Therefore, in my opinion, Japan should accept more refugees into its country. Many people have lost their homes, family members and community. These people deserve a second chance to start from the beginning, and get a better life living here in Japan.

３C 部門最優秀作品

Let's make bonds!

Maho Okada
Jin-ai Girls' High School

"The number of refugees accepted in Japan is very few." Probably, the fact is well known in Japan. I have learned that since I was an elementary school student. My social studies teacher said, "Few refugees came to Japan." Every time I hear that, I feel sad. Why don't Japanese government accept more of them? Why aren't Japanese people generous to them? I have had many questions about how to treat them in Japan.

I think one of the causes of little acceptance of them is differences of culture. In fact, due to the differences of culture, there are many conflicts in foreign countries. In Germany, Ms.Merkel, who was the prime minister of Germany, was very generous to refugees. Some citizens welcomed her attitude, but others are negative about her policy. Sometimes, disturbances between Germany and refugees happen. That is why some German rejected them. Ms.Merkel's strategy were called into question frequently.

I was influenced by her resolute will to her policy. She didn't change her position and didn't stop to tolerate them. Of course, I'm afraid some riots brought by them. However, are all of them risky? No, it's not true. Many people tend to consider bad incidents seriously. That's natural reaction. I know that, but please think about poor people. You often see their sad expressions on TV. You read some articles about their unprivileged lives, don't you? I would like to help them live more easily. Accepting more refugees enables us to know various cultures.

In Japan, it was unusual to put on jeans in the past, but we do that naturally now. Few Japanese spoke English a long time ago, but now, many speak English. At school, we don't get along with people who have different ideas at first, but accumulation of talks makes us become friends. Like that, even if we can't understand others in the beginning, we will know them gradually.

"A good start is important in doing anything." We often hear the word. There is some truth. However, "A process is important in doing anything." This is what I want to say. Shall we accept more refugees? Shall we start to know about them? It is not meeting but understanding and helping each other that is important.

◆高校英語弁論委員会

第６２回福井県高等学校英語弁論大会報告

委員長　**笠　松　佳代子**（金津高校）

３年目となるコロナ禍の中、令和４年１０月１日（日）、第６２回福井県高校英語弁論大会が開催されました。コロナ禍での開催も３年目ともなればその対応に多少の慣れは出てきましたが、度重なる感染拡大の波のもと、不安要素がなくなることはありませんでした。今年度もコロナ対応として昨年度の流れを継承し、「午前の部・午後の部の分散開催」「閉会式なし」「結果は後日各校主任宛てに送付」の形をとり来場数制限も継続することになりましたが、３年ぶりにコロナ前と同じ国際交流会館で開催することができました。

運営上今年度より変更になった点が一つだけありました。全国大会で昨年度から導入された第２部におけるスピーチ後の Q&A の県大会初導入です。その実施にあたっては審査員の先生方に公平かつ妥当な質問を吟味の上準備していただき、大変意義深いものとなりました。

今年度の大会には第１部に１２校から２２名、第２部に４校から７名、第３部に３校５名の参加者があり、全体の参加人数としては、ほぼ例年通りでした。今年度も社会的な問題、自分自身の葛藤など聞き手に学びがもたらされる深い内容が多く、高校生の底知れぬ力を感じました。後掲の優勝者原稿もご覧下さい。

また、今年は当大会の上位大会である東海北陸ブロック大会（令和４年１１月　福井県国際交流会館）も開催され、県大会第１部１位奥村光樹さん（金津高）、第２部１位中島明美さん（足羽高）が本県代表として堂々とした心に響くスピーチを披露し、本県のレベルの高さを再認識しました。

困難な状況の中でもしっかりと準備して大会に臨んだ出場生徒の皆さんに賛辞を贈るとともに、その指導にあたられた指導者、当日の引率者、会場関係者、審査員の先生方、長年にわたり厚くご支援いただいているライオンズクラブの皆さま、そして弁論委員会のスタッフの先生方に対し、厚く御礼申し上げます。来年度もさらに素晴らしいスピーチを拝聴できますことを、また、新型コロナウィルスへの不安と緊張がすこしでも解消された中でこの大会が開催されることを願います。

Ⅰ．大会要項（抜粋）

第６２回福井県高等学校英語弁論大会

１．主催　　福井県高文連英語部会　　福井県英語研究会
　　ライオンズクラブ国際協会３３４－Ｄ地区５Ｒ
２．後援　　福井県教育委員会　　福井新聞社　　福井テレビ
３．日時　　令和４年１０月１日（土）　午前９時３０分より
４．会場　　福井県国際交流会館　地下１階　多目的ホール

５．委員（５０音順）

◎笠松佳代子（金津高）　青山　秀樹（福井商）　内田　冬萌（丹生高）
田川真理子（金津高）　竹内　直美（金津高）　中内　浩貴（美方高）
西口　佳光（武生高）　山口　隆子（武生高）　吉田　充宏（高志高）

６．審査員　第１部　村　香織　（福井工業高等専門学校）
酒井　良輔　（高校教育課）
Simon Woodgett　（義務教育課）
Victoria Stanley　（足羽第一中学校）
第２部・第３部　吉田　三郎　（敦賀市立看護大学）
長岡　亜生　（福井県立大学）
Matthew Hauca　（仁愛大学）
Emma Thomas　（進明中学校）

７．参加資格

福井県の高等学校および高等専門学校（１～３学年）などの学校に在学し、学校代表として選出された、第１部・第２部はそれぞれ各学校から２名以内の生徒、第３部は各学校から３名以内の生徒とする。第１部は次の（a）（b）（c）に該当しない生徒、第２部は次の（a）（b）（c）に該当する生徒や１部の有資格者だが２部に出場したい生徒、第３部は英語の三年間の必修単位数が１２単位以下の生徒

（ａ）満５歳の誕生日以後に、通算１年以上または継続して６ケ月以上、英語圏（英語を第一言語、または公用語、または公用語に準ずる言語として使用する国、地域）に居住した者（英語圏詳細については全英連 HP 参照）

（ｂ）日本国内、海外を問わず、６ケ月以上、英語以外の教科に関し、実態として英語による教育を行っている学校（アメリカン・スクール、インターナショナル・スクール、または授業科目の半分以上を英語で教育を行っている学校を含む）に在籍し、その教育を受けたことのある者

（ｃ）保護者または同居親族に、英語を母語とする者、もしくは英語圏出身の者がいる場合

８．論　題　自由（未発表のオリジナル原稿による prepared speech）ただし、東海北陸大会、全国大会を通じて、スピーチの内容に大きな改変を加えてはいけない。

９．制限時間　第１部、第２部は４分３０秒～５分３０秒（全国大会に準ずる）。第３部は４分以内。第２部の Questions & Answers（Interaction）は制限時間には含めない。

10．令和４年度参加者数

部　門	参加人数	参　加　校
第１部	２２	足羽、羽水、大野、金津、高志、仁愛女子、武生、武生東、敦賀、福井商業、藤島、美方、　１２校
第２部	７	足羽、藤島、武生、武生東　４校
第３部	５	奥越明成、福井農林、道守　３校
合　計	３４	１５校

11．実施細則

（１）第１部（参加資格に制限有り）、第２部（参加資格に制限なし）、第３部（参加資格に制限有り）に分けてスピーチコンテストを実施し成績優秀者を選出する。

（２）第２部において Questions & Answers（Interaction＝やり取り）を実施する。

（３）第１部、第２部で選ばれた各１名が、東海北陸ブロック大会に出場する。

12．審査基準　第１部、第２部、第３部とも全国大会に準じて審査する。

第１部・第３部　内容 Content 50 点、英語 English 30 点、態度 Delivery 20 点、Questions & Answers（Interaction）は実施しない。　合計 100 点

第２部　内容 Content 50 点、英語 English 30 点、態度 Delivery 20 点、Questions & Answers（Interaction）15 点　合計 115 点

13．表彰

第１位、第２位、第３位 … 賞状、トロフィー、 優良賞 … 賞状のみ

14．ライオンズクラブ語学研修派遣

●入賞者の中から若干名、ライオンズクラブによる選考会（令和 4 年 10 月実施）を経て福島県 British Hills（民間語学研修施設）への派遣生を選出

●第１回派遣は令和５年度５月中旬、２泊３日の予定

●当事業はコロナ前のライオンズクラブ海外派遣の代替事業として実施されるものである（翌年度以降のことについては未定）

Ⅱ．入賞者

第１部優良賞は出場順にて掲載

		出場者名	（出身校）	論　題
第１部	１　位	奥　村　光　樹	（金津高）	I Am Myself
	２　位	辻　　昊　実	（羽水高）	Inspiration from an F Student
	３　位	北　川　空　来	（大野高）	Cooperation and Caring
	優良賞	荒　木　　里	（高志高）	Happiness Sits Very Close to You
		安　部　萌　奈	（仁愛女子）	A Leader of Your Own Life
		吉　川　彩　月	（藤島高）	One Question Changes the Future
		塚　﨑　真　子	（武生高）	Education for a Girl Far Away
		有園ガブリエレ	（足羽高）	Gun Violence in the United States
		岡　﨑　紫　乃	（福井商）	Every Bit Helps
		髙　橋　飛　翔	（武生東）	Importance of Studying
第２部	１　位	中　島　明　美	（足羽高）	Life Cut Short
	２　位	湯　川　歩　美	（武生東）	The Judgement Cycle
	３　位	玉　邑　苺　依	（武生東）	Personality and School
	優良賞	芝　　エンゾ	（足羽高）	Discovering Myself
第３部	１　位	青　木　実理歩	（道守高）	What Is a School?
	２　位	木　戸　泉　里	（福井農林）	They Are Also Family
	３　位	浦　松　美　空	（若狭高）	Knowing Is Not Enough

Ⅲ．各部門優勝者原稿
【第１部　第１位】

I AM MYSELF

OKUMURA Koki
Kanazu Senior High School

How much do you know about LGBTQ? These days you often hear the word LGBTQ, right? However I don't want to explain it here today.

First of all, I'm bisexual. So I can love boys and girls. Because of this alone, my friends and family judged me and said bad things to me. I asked my father, "What do you think about LGBTQ?" My father said, "I try to understand it, but I don't want any of my children like that". I was really shocked. So I still haven't told my father the truth. And my sister often asked me, "Do you have a girlfriend?" I always think, "Why is it only about girls?" It must have been a casual word for her, but we LGBTQ people are very sensitive to language. The words you use, of course, may sometimes hurt people. I don't want you to ask, "Do you have a girlfriend?" I want you to use the words "partner" instead of "girlfriend" or "boyfriend". "Manly, feminine," I don't want you to use these words as much as possible. This is my first wish.

A few friends said to me, "It was disgusting", "unusual" and "weird". I tried my best to laugh, but inside I was crying unbelievably. It was painful and sad, but even so, there was no one I could talk to. At that time I hated myself. One day a girl said to me, "I can't accept gay people well." Then I realized that it's okay for some people to be unacceptable and trying to force them to is not good. If you can't accept us, don't say bad things and try to be on the side of people who are having a hard time. This is my second wish.

I found out I was bisexual when I was in fifth grade. At first I was confused and couldn't tell it to anyone. But when I was in ninth grade, I confided my secret to a boy for the first time. I was so scared of what he would say, but he said to me, "You are you, nothing is strange." I was so happy and from that day on I became more confident in myself.

I want people to know who I really am, so I started telling my friends about me. I had some hard times, but many of my friends accepted me. Many people in Japan still do not have a very good understanding of LGBTQ people. Certainly in Japan, because of the problem of declining birthrate, many people do not have a good feeling toward us. However, we didn't do anything wrong. Some people say it's not normal, but I don't like the word normal. It's a simple word, but it hurts me the most and makes me feel uncomfortable. Only knowing about LGBTQ is not enough. It is said that 1 in 10 people in Japan today is an LGBTQ person. You may think it's troublesome, but a casual word can sometimes change the way people live. Please don't forget this.

Lesbian, gay, bisexual, transgender, questioning, we are no different. We should respect each other more. I hope the day will come when prejudice and discrimination will disappear.

【第２部　第１位】

Life Cut Short

NAKASHIMA Akemi
Asuwa Senior High School

Suicide is a complex issue, but one that we have to be willing to talk about. It's important to understand the risk factors to identify and help those at risk of suicide. Among young people in Japan, suicide remains the leading cause of death. The highest number of suicides is among high school teenagers.

Last year, Japan recorded 499 suicides among children aged 6 to 18 during the school year. It was the highest number in Japan's recorded history. That was a leap of more than 25 percent from the previous year, and though the Ministry of Health, Labour and Welfare say the main reasons have remained more or less the same—poor academic performance, career uncertainty, and family problems—some experts believe the pandemic has played a significant role.

The National Center for Child Health and Development has been conducting surveys to gauge the impact of the pandemic on children in Japan. The results are shocking: 15% of elementary school students, 24% of junior high school students, and 30% of high school students have been diagnosed with moderate or worse depression symptoms. Additionally, 24% of all respondents reported having suicidal thoughts and one in six children said they had self-harmed, including hitting themselves or pulling out their hair.

Some children turn to social media for help and end up venting their feelings there. But this refuge may not be enough.

"I don't have a place at home. I don't have any friends I can rely on. I wandered around for three hours last night. I don't know what to do."

This is an example from someone who was going through suicidal thoughts, and even with social media, family, and friends, the teenager did not feel comfortable or welcomed and looked for help on MEX. MEX is a website where teenagers who have difficulty talking to their families or friends or face problems such as abuse, bullying, or suicidal thoughts can look for support. Even with the support coming from the site and the people who are connected through it, it is important to emphasize that people still need real-world help and support from the people they know, to feel comfortable and welcome in their society, talking about their problems, and having people close to them who make the effort to also understand them.

It seems more and more children are at risk. How can we help them?

Early detection is a key strategy in the prevention of youth suicide. Some people believe asking children about their well-being will increase suicide rates, but studies have found that not true. The National Center for child health recommends the "TALK" principle. You should tell them that you care, Ask directly (If they are thinking about suicide), Listen and recognize the feelings and Keep them safe.

I believe that by using the TALK principle as a base, we can learn that we should work more on our communication and try to understand the other part and apply that in everyday life with those we care about. It can be uncomfortable to talk about suicide, but it's important to ask if

someone has been thinking about hurting themselves, and with simple dialogue, you can comfort those around you, listening to them and talking about their problems. You can encourage them to reach out for help by calling a hotline or talking with someone they trust. then, Encourage others to reach out when they're feeling suicidal. You can do this by helping them find resources like hotlines and support groups like the website MEX, or simply by listening without judgment while they talk through their feelings. And stay connected! Check in with friends regularly and make sure they know how much you care about them. Preventing suicide isn't just about those you don't know. Sometimes we don't notice that in our own circle of friends there can be someone going through something difficult. So by applying the TALK principle in everyday life, we can show how much we care about them and how important they are to us and to the world.

I believe this is important not only to prevent suicide but also important for us to be more connected, act like human beings and understand more about others that are around us.

If we try to recognize the problem and use simple solutions, like the TALK principle, and work more on our daily communication, it’s possible we can save many lives before they are gone forever.

【第３部　第１位】

What Is a School?

AOKI Miria
Michimori Senior High School

Hello, everyone.

I will give a quiz with three clues to start my speech. What does 190,000 children from elementary school to high school in Japan mean? The first clue is that this number, 190,000, is increasing every year and last year was the highest. Second, this was a surprising number for school teachers and parents. Third, I was one of them when I was a junior high school student. Some of you may have figured it out. Yes, this is the number of children who stopped going to school regularly last year.

I think this is a great loss for Japan and I believe the reason for this is Japan's educational policy.

I spent half of my junior high school life at home. In junior high school, we are only scolded for what we can't do. To me it doesn’t make sense that the education system would scold a student just because they are different. I believe Japanese schools should be more diverse. When I was in junior high school, I found it difficult to live as one of the many. We should not be forced to do the same thing as everyone else because as we know society is demanding that individuals have more creative skills.

I was born with hearing loss, and I tried too hard, which made me stand out in class. Following the strict rules of junior high school was hard for me. It was also too difficult to have large amounts of assignments and to experience bullying in class, so I stopped going to school. As a result, I started feeling depressed. I was treated differently from the majority and my opinions were not respected. It was painful and led to self-loathing, and my depression worsened. I have met many people who have had similar experiences. Like me, they all suffered from feelings of hopelessness and self-doubt. Is not going to school such a problem? We are not in the army and this is unreasonably strict. School rules sometimes ignore humanity.

When I entered Michimori High School, I was changed. I realized this was the kind of education I was looking for. I saw it was geared towards the individual, not the majority as in junior high school. Frankly speaking, some people are a little peculiar, but I accept their individuality. Thanks to this school system, I was able to fully express my individuality and became more positive being different from others.

I want the number of people not attending school and suffering emotionally to reduce. A tendency among Japanese people is to think being different from others is a bad thing. I would like schools to allow more flexibility, diversity and be more inclusive. The students would be encouraged to express and develop themselves as they are. That would help young people to grow to be better citizens. This will be beneficial to society. It is time to rethink our educational policy to make the most of the education in Japan.

I have a dream of becoming a school counselor in the future at a school that makes great use of individuality.

◆中学校英語弁論委員会

第６５回福井県中学校英語弁論大会報告

委員長　**園　井　圭　介**（三国中学校）

去る９月２２日、無事に第６５回福井県中学校英語弁論大会を終了することができました。今年は４５名の参加となりました。高円宮杯本大会が 10 月上旬へ前倒しとなり、福井大会も２週間ほど前倒しとなりました。各校ともに学校祭や秋季新人大会前のご多忙な中での校内選考や発表準備となったと思います。各地区の先生方のご尽力を感じました。各校の先生方をはじめ、関係者の皆様に心より感謝の言葉を申し上げたいと思います。

さて、今年の発表者の内容について見ると、多様性やさまざまな個性を尊重していこうというメッセージの発表などもあり、興味深いものが多くありました。

優勝を勝ち取った武生第一中学校のミタニ　フェレイラさんは社会に対する偏見や差別についての思いや多様性が認められていくことへの希望について熱く自分の思いを表現してくれました。多様性を理解し、内面でその人を判断するべきだと改めて感じました。

２位となった荒木愛理さんは、今後超高齢化社会を迎える日本が直面するだろう「ヤングケアラー」について彼女の経験を交えて話をしました。「ヤングケアラー」が思いを共有できる場所を準備することや学校教育の現場で、もっと高齢者支援についての知識と問題解決策について学習しようという考えでした。

同じく２位となりました飛山愛梨さんは様々な個性をレインボーに例え、多様性を受け入れる社会の重要性とそのために個々が心がける小さな行動や変化について熱く話をしました。今の日本の現状と、人々の持つ古い考え方を改めていこうと思わせる内容でした。

発表を聞いていると、関わっていただいた先生方のご尽力が伝わってきました。今年度も午前、午後の２部構成とさせていただきましたが、皆様のご協力のお陰で、スムーズに進行できたと感じております。ありがとうございました。優勝のミタニさん、２位の荒木さん、飛山さんは１０月１３日の高円宮杯全国大会英語弁論大会（ビデオ審査）に参加しました。結果、ミタニさんは１１月１８日に行われた決勝大会まで進出し、２４位入賞という成績でございました。

今年も英語弁論大会の運営にご協力頂き、ありがとうございました。

【入賞者】

優勝　ミタニ フェレイラ（武生第一中学校）　Obstacles to Being Yourself

２位　荒木　愛理（福井大学教育学部附属義務教育学校）
Towards a Society Where Children Can Be Children

２位　飛山　愛梨（明倫中学校）　The rainbow hashtags

放送テスト部

部　長　**栗　田　由紀枝**（森田中学校）

日頃より英語放送テスト部の活動におきましては、ご理解とご支援をいただき心より感謝申し上げます。おかげさまで今年度も全公立中学校（20,000 名余り）と、多くの高校（2,500 名余り）の生徒のためにご採用いただきました。

今年度、本部会では２名の新規部員を迎え、３１名のメンバーで活動しています。また、部員の先生方、働き方改革が推進される中、問題作成に多大なる協力をいただくことで放送テストが発行されています。

より自然な場面設定の英文や発話場面が再現されるよう問題を作成しています。

１．令和４年度　各問題の出題範囲・発行回数・発送日

各問題の出題範囲（A、B、Cの出題範囲は東京書籍2016 及び2021年版 NEW HORIZON に準拠）

種別	対象（発送日）	第１回（5 月中旬発送）	第２回（11 月初旬発送）	第３回（1 月初旬発送）
A	中学 １年生	NEW HORIZON 1 P.4　Unit0 Welcome to Junior high School ～ NEW HORIZON 1 P.36　Grammar for Communication 2 名詞	P.37　Unit 4 Friends in New Zealand ～ P.76　Grammar for Communication 5　代名詞	P.77　Unit 8 A Surprise Party ～ P.121　Stage Activity 3 My Favorite Event This Year
B	中学 ２年生	NEW HORIZON 1 P.122　Learning LITERATURE ～ NEW HORIZON 2 P.34　Let’s Listen 2 インタビュー	P.35　Unit3 My Future Job ～ P.82　Let’ s Listen 5 留守番電話	P.83　Unit6 Research Your Topic ～ P.121　Stage Activity3 My Favorite Place in Our Town
C	中学 ３年生 移行処置期間 高校１年生	NEW HORIZON 2 P.122　Let’s Read 3 Pictures and Our Beautiful Planet ～ NEW HORIZON 3 P.34　Let’s Listen2　講演	P.35　Unit 3 Animals on the Red List ～ P.70　Let’s Listen 5 世界で働く人への インタビュー	P. 71　Unit 5 A Legacy for Peace ～ P. 114 これからの英語学習法

２．令和４年度　会議実施

・問題形式や活動方針に関する全体会議	３回（６月、１１月、２月）
・問題作成会議	９回（夏季・冬季休業中）　※ 9 時～ 17 時
・録音および校正会議	６回（録音会議は９月、１０月，２月の土曜日 ／校正会議は各録音会議の３週間後）
・結果検討会議	１回（正答率の低い問題について検討）
・チーフクラス方針会議	３回（必要に応じて随時）

３．問題作成について

・NEW HORIZON2021 年度版の使用が２年目に入り、使われている言語材料や教科書の進度も定着してきたことを踏まえ、昨年度問題作成した範囲を見直しました。

・今年度よりＣの問４は、第１回から第３回まで全て英問英答としました。

・Ａ～Ｄの問１の問題において、読まれる英文は繰り返しをせず、一度だけしか読まれないという変更を行いました。

４．Ｄ問題過去問題集について

Ｈ２７年度から高校生用のＤ問題の発行を中止していましたが、Ｄ問題復活の要望があり、昨年度から過去の問題より抜粋し、Ａ～Ｃと同様のテスト形式にて作成しています。ＡＬＴの協力を得て、不自然な表現や場面を改良しながら作成しています。

５．結果検討について

本部会は問題を作るだけでなく、その後に正答率や IDI（上位 25％と下位 25％の正答率の差）の統計を算出し、正答率が低かった問題については部内で検討しています。今年度も３月末に結果検討会議を開き、問題改善に向けて正答率や IDI などのデータをもとに検討会を行ないます。合本については、昨年度と同様に、データは掲載しますが、正答率の低い問題についてのコメントは掲載しません。

６．令和４年度　部員および役割分担

No	名　前	学校名	No	その他の役割	
1	若　島　聡　美	明倫中学校	17	吉　田　広　視	金津中学校
2	髙　田　由紀子	光陽中学校	18	山　田　紘　子	丸岡中学校
3	嶋　田　晃　士	光陽中学校	19	佐々木　祥　子	中央中学校
4	河　合　啓　子	明道中学校	20	吉　田　莉　久	鯖江中学校
5	笠　松　政　世	進明中学校	21	伊　藤　文　彦	武生第一中学校
6	☆小　川　陽　平	進明中学校	22	木　戸　美樹子	武生第二中学校
7	竹　澤　沙　貴	至民中学校	23	吉　本　美　里	武生第三中学校
8	中　島　佑　介	灯明寺中学校	24	中　村　真　士	武生第五中学校
9	ハート　真由美	藤島中学校	25	田　嶋　由　美	坂井高校
10	坂　本　ゆうき	大東中学校	26	水　嶋　崇　太	鯖江高校
11	☆魚岸（竹澤）彩佳	森田中学校	27	大　村　昭　友	足羽高校
12	角　　有　紗	社中学校	28	森　　一　生	武生高校
13	兼　井　智　加	義務教育学校	29	（部　長）栗田由紀枝	森田中学校
14	河　合　　創	義務教育学校	30	（副部長）野﨑　恵美	高志中学校
15	藤　田　理　沙	松岡中学校	31	（副部長）伊藤美智子	足羽高校
16	奥　出　恵　莉	陽明中学校		☆は新規部員	

７．放送テスト部員より一言

○作成してくださっている先生方、本当にありがとうございます。テストで使わせていただき、生徒の学習にも役立っています。（髙田）

○毎度毎度、おいしいお茶菓子とアットホームな会議で、放送テストの出張は大好きです！少しでも良い問題が作れるように、原案作成を頑張ろうとおもいます。（吉本）

○会議は午前中のみ参加する日が多くて申し訳ないです。少しでもお役に立てる間は参加させてください！（田嶋）

○運営の先生方、問題作成の先生方、いつもお世話になり、ありがとうございます。（木戸）

○初めてですが、精一杯頑張りたいと思います。問題作成や会議は、本当に勉強になります。（竹澤彩）

○他の先生方に相談できますし、たくさん勉強になります。学校の定期考査のテスト作成にも役立ちます。問題作成や会議は、本当に勉強になります。（竹澤沙）

○毎回の会議に参加するたびに新たな発見があります。また、録音会議では自然な英語の使い方をネイティブの先生に教えてもらえるので、毎回とても勉強になります。今後ともよろしくお願いします。（中村真）

○気づけば何年もお世話になっています。何年経っても毎年新たな先生方との出逢いの中でつながりができたり、一緒に問題作成をさせていただく中で、個人で教材研究するのとは違った気づきがあったり、有意義な時間です。ありがとうございます。（佐々木）

まずは、お忙しい中、部員として問題作成に関わってくださる先生方、本当にありがとうございます。そして、県内各校の先生方、放送テストを採用し、授業でご活用いただきありがとうございます。この放送テストが多くの学校に採用していただき、この部会が県英語研究会の組織として、長く続いているのは、生徒の英語力を伸ばしたいと、先生方が思いを紡いできた結果なのだと思います。

問題の作成は勤務時間外になることもありますが、県内どの学校でも同じ内容の問題を、生徒に経験させることができます。また、先生方にとっても生徒に身につけさせる力の目安になっているという面もあるのではないでしょうか。さらに、問題を作成し、JTE、ALT と共に練り合う作業は英語の言語と向き合える絶好の機会です。

今後、小学校における英語の教科指導においても小学校版の放送テストの必要性が高まってきたら、問題作成のノウハウを伝え、ともに試行錯誤を行うことも考えていきたいです。

テストの採用がある限り、問題の作成に関わっていきたいと思いますが、少しでも多くの先生方に参加していただき、一人一人のご負担が少なくなれば、と感じます。少しでも興味をお持ちの先生方、ぜひ、周りの部員の先生方や事務局にご一報ください。　（森田中学校　栗田由紀枝）

広　報　部

部　長　**島　田　敏　宏**（金津高校）

今年度も広報部の部長を務めさせていただきましたが、まずもって、広報部の活動に御理解・御協力を賜りましたこと、厚く御礼申し上げます。会員名簿の作成については、至らぬところがあり、皆様にご迷惑をおかけしてしまい、申し訳ありませんでした。次年度以降気を引き締めて取り組ませていただきますので、今後とも変わらぬ御支援を賜りますようお願い申し上げます。会報につきましては、会員の皆様に興味を持って読んで頂けるような会報を目指し、これからも部員一同誠心誠意取り組んでいく所存です。『会報』では、継続して「英語科紹介」コーナーで、各校の先生方を紹介させて頂いております。好評を頂いており、引き続き紹介をさせて頂きたいと考えておりますので、依頼があった際には、御協力の程よろしくお願いします。

また、広報部では英語研究会のホームページを管理・運営しており、インターネット上でいつでも会報を見て頂けるように更新しております。こちらも気軽に御活用頂けると幸いです。

最後になりますが、各校英語科主任の先生におかれましては、年度当初のお忙しい折に、会員名簿の作成にご協力頂きまして誠にありがとうございました。次年度以降もお世話になりますがどうかよろしくお願いします。

１．令和４年度事業報告

１）福井県英語研究会会員名簿発行（７月、700 部）

２）『会報』第 81 号発行（2023 年３月、600 部）

３）福井県英語研究会ホームページ管理運営
ホームページアドレス：https://fukuieiken.jp/

２．令和４年度広報部員

部　長　　島　田　敏　宏（金津高校）
副部長　　織　田　昌　宏（大野高校）
部　員　　稲　葉　芳　明（大野高校）
　　森　谷　町　子（大野高校）
　　川　田　裕　貴（開成中学校）

研　究　部

部　長　**辻　　智　生**（敦賀高校）

１．各委員会より

（１）リーディングテスト部会

活動内容：リーディングテストＡ、Ｂ、Ｃを４回分作成（会議は各回につき４回程度）
第１、２回を５月上旬、第３、４回を 10 月下旬にそれぞれ配付

本年度も教科書の内容、言語材料に関連したリーディング教材を作成した。更に『Let's Read Ａ，Ｂ，Ｃ』も例年通り改訂を加えた。なお､令和５年度Ｃの第１､２回は嶺南リーディングが作成した。どの教材についても、生徒が無理なく読むことが出来るように既習の表現を用いて作成した。３年生であれば１年生で使用した旧教科書と２、３年生で使用している新教科書の語彙を用いている。作成委員の先生方は常に社会情勢や流行にアンテナをはり、生徒に伝えたいことを英文に込めるよう努力されている。そのおかげで、中学生は興味を持って読み進めることができ、また何かしらの学びを得ることができる良問ができたと自負している。なお、作成の際には、以下のような点に注意をしながら取り組んでいる。先生方が問題作成をされる際の考え方として、参考になる点もあるのではないかと思う。

〇主な特徴

（１）主に教科書の post-reading という位置づけで、教科書だけでは不十分な「英文を読む活動」を補う。内容は教科書の各 Unit に関係した、より幅広いまたは深い内容を扱ってもよいし、作成者オリジナルのものもある。

（２）コミュニカティブな読み（communicative reading）という視点から、メッセージに重点を置いた問題作成を目指している｡｢読んでよかった｣と生徒と教師が思えるような作品を目指す。

（３）読みのプロセスを考慮し、初級レベルの読み手でも内容スキーマ、形式スキーマを活性化させて、主体的に取り組めるように配慮している。

（４）テーマは流行のテーマから普遍的な題材まで多岐にわたり、生徒の知的レベルにあった興味関心を引く英文素材である。

（５）タスク（task）を工夫し、概要把握、要点把握、論理的推理などのスキル（skill）を養うことを主眼に設問を構成している。「テスト」と名前は付いているが、読解力をはかることを主眼にはしていない。また、設問は原則、客観式とし、生徒が自分自身で取り組み、解答できるようになっている。

本年度も新型コロナ感染を防ぐため、会議の持ち方を工夫して取り組んだ一方で、働き方改革を受けて開始時間を早めたり、Email を活用したりしてできる限り会議の実施回数や開催時間が減らせるように取り組んだ。１回目～３回目は成和中学校の教室などをお借りして実施し、内容が固まり細かな修正で済む最後の会議はオンラインで実施するなどして感染リスクを低減させるよう努力をしてきた。今年度も作成委員の確保に苦労したが、委員長の澤田先生をはじめ、参加した先生方の努力のおかげで、生徒の興味関心を引きつけるようなよいテストが完成した。新たに参加してくださった先生方の問題作成の技量も回を重ねるごとに向上し、充実した活動ができたと自負している。

以下に令和４年度の各作成回の出題範囲を示します。令和５年度も変更しない予定です。参考にしてください。

＜令和４年度　各作成回の出題範囲＞

A (Book １)	範囲
第１回（１）--- Unit 0 ～ Grammar 2	U0-3 (pp.4-36)
（２）--- Unit 4 ～ Small Talk 1	U4-5 (pp.37-56)
第２回（１）--- Unit 6 ～ Grammar 4	U6 (pp.57-66)
（２）--- Unit 7 ～ Grammar	U7 (pp.67-76)
第３回（１）--- Unit 8 ～ Grammar 6	U8 (pp.77-86)
（２）--- Unit 9 ～ Small Talk 2	U9 (pp.87-100)
第４回（１）--- Unit 10 ～ Grammar 7	U10-11 (pp.101-119)
（２）--- Stage Activity 3 ～ Let's Read 2（全範囲）	LR (pp.120-126)

B (Book ２)	範囲
第１回（１）--- Unit 0 ～ Let’s Listen 1	U0,1 (pp.4-20)
（２）--- Unit 2 ～ Let’s Listen 2	U2 (pp.21-34)
第２回（１）--- Unit 3 ～ Word Room 1	U3 (pp.35-51)
（２）--- Let's Read 1 ～ Let’s Listen 4	LR1-U4 (pp.52-70)
第３回（１）--- Unit 5 ～ Let’s Listen 5	U5 (pp.71-82)
（２）--- Unit 6 ～ 学び方コーナー３	U6 (pp.83-99)
第４回（１）--- Let’s Read 2 ～ Grammar 6	LR2-U7 (pp.100-116)
（２）--- Let’s Listen 7 ～ Let’s Read 3	LR3 (pp.117-126)

C (Book ３)	範囲
第１回（１）--- Unit 0 ～ Let’s Listen 1	U0-1 (pp.4-18)
（２）--- Unit 2 ～ Let’s Listen 2	U2 (pp.19-34)
第２回（１）--- Unit 3 ～ Word Room 1	U3 (pp.35-51)
（２）--- Let’s Read 1	LR1 (pp.52-56)
第３回（１）--- Unit 4 ～ Let’s Listen 4	U4 (pp.57-70)
（２）--- Unit 5 ～ Let’s Listen 5	U5 (pp.71-88)
第４回（１）--- Unit 6 ～ Word Room 3	U6 (pp.89-105)
（２）--- Let’s Read 2 ～ 学び方コーナー３	LR2-3 (pp.106-114)

（２）リサーチ委員会

作成委員の確保が難しいことから活動を停止した。冊子版の『Let's Read for Message』については、昨年度作成した英文を加え発刊した。内容はこれまでと変わらず生徒の興味関心を引くようなものであると自負している。

（3）ＴＥＦＬ委員会

観点別評価について、授業と評価の一体化の観点から、どのような指導があり、どのような評価がなされているのかを共有し、どのような指導と評価が適切なのかを探究していくことをテーマに活動してきた。思判表の評価、主体性の評価に関してはまだまだ手探りの部分があり、委員が所属する学校間でもかなり差がある。TEFL 委員会の試行錯誤を合本では、そのままご覧頂きたいと考えている。皆さんにとって考えるきっかけ、何かしらの学びを得るものとなることを願っている。

また今年度も Bridging を発行する。新年度生の高校入学前や入学後に中学校で学んだ英語の復習に活用頂けるものである。是非、ご活用いただきたい。

（4）英語ディベート委員会

本年度の研修会や大会は全てオンラインで行った。コロナ感染拡大防止のため研修に参加できない高校があるなど、若干のトラブルはあったものの、各高校のネット環境が改善したこと、生徒や教員が経験を重ねつつあること､各高校の運営協力者や引率担当の先生方の尽力もあったことから、無事終了することができた。様々なノウハウの蓄積ができた。

５～７月	YouTube 視聴を通して、ディベート概論と各役割に関わる研修
７月２４日（日）	第１回オンライン研修会【パーラ】練習試合
８月　６日（土）	第２回オンライン研修会【アカデ】練習試合
９月１１日（土）	メイクフレンズカップ　ジャッジミーティング
９月１９日（月）	第２回オンライン研修会【パーラ】練習試合【アカデ】練習試合
９月２３日（木）	メイクフレンズカップ in Ｆｕｋｕｉ　運営
１０月１８日（日）	【即興型】･【準備型】ともに練習試合
１０月２６日（水）	引率者・運営協力者会議
１１月　３日（木）	福井県英語ディベート大会（準備型）
１１月１３日（日）	福井県英語ディベート大会（即興型）
１２月１０日（土）～１１日（日）	全国高校生英語ディベート大会オンライン（帯同ジャッジとして１名参加）

（5）オフィス

より高度な英語コミュニケーション能力を求められる現在、教員が情報を交換し自分を磨く場としての英語研究会の場は大変貴重である。特に多忙化の中で先輩教員が、後輩の指導に十分にあたる余裕がない現状も学校によってはあるように思う。特に中堅以上の先生方におかれましては、先生方の知識・ノウハウの継承のためにも参加いただきたい。とはいえ、これまでと同じような活動を進めていくことは困難な状況である。生徒の英語力向上のために、英語教員としての資質向上のためにどのようなことができるか、研究部のあり方を探りつつ活動を進めていく。

２．令和４年度委員名簿

研究部（オフィス）			
	職	名　前	学　校　名
1	部　長	辻　　智生	敦賀高等学校
2	副部長	村　　昭信	三国高等学校

リーディングテスト委員会（嶺北）			
	職	名　前	学　校　名
3	委員長	澤田　亜紀	成和中学校
4	委　員	進士　祐介	高志高校
5	委　員	今川　佳紀	福井工業大学附属福井高校
6	委　員	稲田さとみ	丸岡中学校
7	委　員	和田　　重	灯明寺中学校
8	委　員	伊藤江莉奈	足羽中学校
9	委　員	谷口　広憲	武生第三中学校
10	委　員	佐伯　那菜	明道中学校
11	委　員	藤木　　唯	明道中学校
12	委　員	右原　弘晃	南越前中学校
13	委　員	伊藤　瑛里	進明中学校
14	委　員	源藤　里佳	丸岡中学校
15	委　員	水谷　友梨	武生東高等学校
16	委　員	山口　直孝	福井東特別支援学校
17	委　員	清水　慈昭	足羽高等学校

リーディングテスト委員会（嶺南）			
	職	名　前	学　校　名
18	委員	澤田　更紗	若狭高等学校
19	委員	百田　貴哉	若狭高等学校
20	委員	小竹　景士	敦賀工業高校
	委員	**	

リサーチ委員会			
	職	名　前	学　校　名
	活動休止		

ＴＥＦＬ委員会			
	職	名　前	学　校　名
21	委員長	大橋　夕紀	若狭高等学校
22	委　員	三仙　真也	藤島高等学校
23	委　員	百田　忠嗣	三方中学校
24	委　員	本田　涼哉	若狭高等学校
25	委　員	山本　由貴	敦賀高校
26	委　員	松井　貴昭	若狭東高校
27	委　員	澤田　朋美	粟野中学校

英語ディベート委員会			
	職	名　前	学　校　名
28	委員長	辻　　智生	敦賀高等学校
29	委　員	三仙　真也	藤島高等学校
30	委　員	木下　　弥	奥越明成高等学校
31	委　員	笹木　英俊	金津高校
32	委　員	松井　貴昭	若狭東高校
33	委　員	西川　智康	高志高校

◆リーディングテスト委員会

委員長　**澤　田　亜　紀**（成和中学校）

＜委員の先生方の活躍＞

今年度のリーディングテスト委員会は、問題作成者に新たに１名の先生をお迎えし、スタッフ５名、問題作成者15名（嶺北11名、嶺南３名、兼務１名）、アドバイザー１名、計21名でリーディングテストの作成に取り組みました。昨年度から継続してご協力してくださった先生方はもちろん、新たに参加してくださった先生も、非常に精力的に取り組んでくださり、感謝いたします。嶺北リーディングテスト委員会では、５月にオンライン会議を実施し、今年度の方針などを話し合いました。今年度から、第一期を５月～８月、第二期を10月～１月とし、１ヶ月に１回のペースで検討会議を行いました。前年度までの12作から８作へと問題作成数を減らしたことで、先生方へのご負担を少し軽減できたのではないかと思っております。嶺南リーディングテスト委員会では、９月から１月にかけて、嶺北同様、月１回程度のペースで検討会議を行いました。昨年度よりも、会議と会議の間にゆとりがあったため、メールでのやり取りを積極的に行っていただき、毎回の検討会議の話し合いをスムーズに行うことができました。

＜リーディングテスト委員会の活動の様子＞

リーディングテスト委員会の検討会議は、グループごと（A：中学１年生、B：中学２年生、C：中学３年生）に分かれ、チーフの先生を中心とし、終始和やかな雰囲気で進められています。どの先生も、書籍やウェブサイト、ご自身の経験などから、生徒が興味を持ちそうなトピックを取り上げ、よりメッセージ性の高い問題を作成してくださっています。

また、すべてのグループに、中学・高校の先生、経験年数の長い・短い先生がおり、様々な視点からお互いの問題を検討し合うことができています。検討会議の場は、校種を超えた貴重な意見交換の場にもなっています。リーディングテスト作成の技術は、英語教員に欠かせませんので、若い先生はもちろん、ベテランの先生方にもどんどん参加していただき、お互いのアイデアや経験をこの場で生かしていただきたいと思います。リーディングテスト作成に興味のある方、校種・時期を問わず、いつでも大歓迎です。

＜リーディングテストについて＞

リーディングテストを作成するにあたり大切にしていることは、読み手である生徒に送るメッセージです。生徒に興味を持ってほしいこと、考えてほしいこと、気づいてほしいこと、学んでほしいこと、などを伝えられるような問題作成を心がけています。そして更に、これらのメッセージの読み取りを期待して、設問を作成しています。設問については下のような視点を大切にしています。

・本文に書かれた情報を整理するもの（語彙や新出の言語材料を理解しているか確認）
・ストーリーの流れを推測するもの（文字情報からその後の流れを推測できるか確認）
・述べられている状況を絵で選ぶもの（文字情報から場面をイメージできているか確認）
・メッセージを読み取るもの（筆者や登場人物が英文を通して伝えたいことをつかめたか確認）

テスト範囲のページ番号を各テストに記載し、授業の進度に合わせて利用しやすくなっています。また、昨年度より「語数」を表記することにより、WPM（Words Per Minute）にも活用しやすくなったのではないかと思います。

＜ Let’s Read について＞

リーディングテスト委員会では、過去のテストを冊子にした Let’s Read（Ａ～Ｃ）を作成しています。毎年改訂を行っており、教科書改訂に伴う新出語句や文法事項の配列、トピックの精選にも気を配っています。旧教科書での作成範囲と新教科書の作成範囲が混在しておりますので、文法配列が新教科書に完全に対応できておりませんが、徐々に移行していきたいと思います。

＜リーディングテスト委員から一言＞

○生徒が読みたくなるような､メッセージ性のあるテストを先生方と議論しながら作成しています。毎回の会議で先生方からたくさん刺激をもらえるので、ありがたいです。

（南越前中　宇原　弘晃）

○１つのテストに対して様々な視点に触れることができたり、自分一人では得られなかった気づきもあったりして勉強になります。他校の先生といろんな話ができる機会でもあるので、とても楽しく参加させてもらっています。（武生第三中　谷口　広憲）

○リーディングテスト委員会に関わらせていただいて長くなります。毎回、どのようなテーマでいこうかな、どのようなメッセージを中学生に伝えようかな、といろいろ考えて英文を作成するのが楽しいです。また、リーディングテスト委員会の先生方とお話する中で、自分にはない考えを得たりして､自分の世界が広がります。（武生東高　水谷　友梨）

○本年度で５回目の参加となりますが、毎回新たな発見が得られ、刺激を受けています。自分事ではありますが、今年は英文作りに苦戦しており、自分でも納得いくようなものを作ることができずにいました。しかし、ここでの会議で、様々な視点から自分の英文を見ていただき、改善に努めることができました。これからも、この会議を通して、たくさん勉強させていただきたいと思っています。（足羽中　伊藤　江莉奈）

○昨年度に引き続きリーディングテスト委員会に参加させていただき、毎回他の先生方からたくさんの刺激をもらっています。いろいろな長文を読んでいくなかで、新しい視点を得ることができました。ありがとうございました。（進明中　伊藤　瑛里）

○福井県全域の中学生のために各担当の面白い話題や工夫を凝らした設問を協議する会議は、テスト作りはもちろん、授業作りに役立ちます。（藤島中　嶋田　剛久）

○今年で2年目のリーディングテスト部会になりました。２年目と言うことで､１年目で学んだ様々なことを活かせた１年になりました。生徒に読んでほしい、知ってほしい事柄を、生徒が理解しやすい英語で考えることができ、多くの学びを得られました。また、今回は改訂作業もさせていただき、新しい視点でリーディングテストに関わることができました。昨年度に引き続き、貴重な経験をさせていただき、感謝しています！ありがとうございました！

（明道中　藤木　唯）

○読解問題の長文化やマルチタスク化が進む近年の動向を横目でにらみつつ，リーディング委員会の作問では，なるべくシンプルな作品を仕上げたいという思いがあります。どこまでもあまのじゃくですね(笑)。　（福井東特別支援　五領分教室　山口　直孝）

○昨年度に引き続き参加させていただきました。自校の業務に加えてのお仕事なので、確かに大変です。しかし、学校のテストほど気を張らずに、自由に長文（問題）を作れることに楽しさを感じています。特に、今年度は自分の作ったものが初めて掲載され、それを読んだ生徒が「いいお話ですね」と言ってくれました。とても嬉しかったです。英語科のテストは、学習した表現をフル活用して、生徒に「読ませたい！」と思うものを自由に作れることに大きなやりがいがあると思います。これからも英語科の教員として、読んでいて楽しいお話、勉強になるお話を作っていきたいです。　（明道中　佐伯　那菜）

○毎年、どのようなテーマを読んでもらうと良いかを考え、会議で色々なご意見をもらって文章を考えていくうちに自分自身もテーマに対する理解が深まり勉強になります。
（若狭高　澤田　更紗）

【今年度新メンバーより】

○「考え込める題材・設問は何か」を深く考えるきっかけとなりました。自分の英文を他の先生方に見ていただき、そして他の人の英文をチェックする中で、問題を作る上での視点が広がりました。良問とするために、他校多校種の先生方と話せる機会は非常に充実していました。
（敦賀工業高　小竹　景士）

◆ＴＥＦＬ委員会

委員長　**大　橋　夕　紀**（若狭高校）

今年度の TEFL 委員会では、観点別評価について授業と評価の一体化の観点からどのような指導がありどのような評価がなされているのかを共有し、どのような指導と評価が適切なのかを探究していくことをテーマに活動してきました。

まず「知識・技能」「思考・判断・表現」としてふさわしい問いとはどのようなものかを考え共通理解を得たいという観点から、委員の先生方の学校で作られている定期考査を持ち寄り、どのような問い方をしているか評価をどのようにしているかを紹介し合いました。各学校で行われている考査作成における工夫や中高それぞれの実態を共有することができ、考査を用いた評価についてそれぞれが考える良い時間となりました。

次に、この考査を行うまでの指導の在り方を話し合いたいという流れになりました。そこで、以下の６点についてＡ４　１枚程度のレポートを用意してもらい前回の会議で共有した考査を行うまでの指導の在り方について話し合うことにしました。

①授業の流れ
②何に焦点をあてた取り組みか
③提示したテストとの関連事項
④授業やテストの組み立てや作成にあたり同僚と話した内容
⑤テスト（考査）後の生徒や教員の振り返りについて
⑥評価（テストの結果や成績等）を用いてどのようなフィードバックを行ったか

指導の中には、それぞれの学校の実情に合わせて生徒の英語力を今より向上するための仕組みがありました。授業等の指導で行ったことをどのくらい習得できているのかを考査で訊くというのはともすれば当たり前のことと捉えがちですが、指導と評価の一体化を考えるうえでベースともいえる部分であり、この流れについて委員の先生方と共有し意見し合えたことによって指導から考査までの在り方をどう組み立てていけばよいかを考える非常に良い機会となりました。

Bridging については今年度は一部修正し発刊する予定です。Bridging がより良いものとなるようご意見等ありましたら、どんなことでも委員もしくは委員長あてに言っていただけると幸いです。

TEFL 委員会は嶺南を中心に活動しています。中高の教員が協働的に研究に取り組み毎回会議ではとても良い刺激を得ることができています。自らの日々の教育活動に TEFL 委員会活動の内容をフィードバックするともに、合本を通して福井県の英語の先生方に少しでも有益な研究内容を報告できればと考えています。

〈2022年度 TEFL 委員会　委員（５０音順）〉

大橋　夕紀（若狭高校）	澤田　朋美（粟野中学校）	三仙　真也（藤島高校）
橋詰　夏実（小浜中学校）	本田　涼哉（若狭高校）	松居　貴昭（若狭東高校）
百田　忠嗣（三方中学校）	山本　由貴（敦賀高校）	

◆英語ディベート委員会

委員長　**辻　　智　生**（敦賀高校）

英語ディベート委員会は第１３回全国高校生英語ディベート大会 in Fukui における運営委員会を母体とし２０１９年にスタートした。全県的なディベートの指導体制の確立および指導法のノウハウの蓄積のため、また全国高校生英語ディベート大会の開催で生まれた英語ディベート指導の流れと教員のネットワーク、システムを継続・発展させることを目的として活動している。本年度より実施されている学習指導要領では「論理と表現」が科目に加わり、以前にも増して英語による論理的な思考や表現の指導が求められている。その指導法の一つとしてディベートは最適なものの一つであることから、私たちの活動を通して先生方や生徒がディベートに慣れ親しみ、授業でも積極的に活用していただければと考えている。

本年度も研修会や大会は全てオンラインで行った。コロナ感染拡大防止のため研修に参加できない高校があるなど、若干のトラブルはあったものの、各高校のネット環境が改善したこと、生徒や教員が経験を重ねつつあることもあり、各研修会をなんとか実施することができた。また大会では各高校の運営協力者や引率担当、県教委の先生方のご尽力、三仙先生や藤島高校の国際教養部の部員たちの献身的な大会運営補助、また県外からオンラインで参加して下さったジャッジの皆さんのおかげで、終了することができた。

＜令和４年度の主な活動＞

５～７月	YouTube 視聴を通して、ディベート概論と各役割に関わる研修
７月２４日（日）	第１回オンライン研修会【パーラ】練習試合
８月　６日（土）	第２回オンライン研修会【アカデ】練習試合
９月１１日（土）	メイクフレンズカップ　ジャッジミーティング
９月１９日（月）	第２回オンライン研修会【パーラ】練習試合【アカデ】練習試合
９月２３日（木）	第４回メイクフレンズカップ in Fukui　運営
１０月１８日（日）	【即興型】・【準備型】ともに練習試合
１０月２６日（水）	引率者・運営協力者会議
１１月　３日（木）	福井県英語ディベート大会（準備型）
１１月１３日（日）	福井県英語ディベート大会（即興型）
１２月１０日（土）	全国高校生英語ディベート大会オンライン（帯同ジャッジ１名参加）（～１１日）

＜英語ディベート参加高校と結果＞　（　）内は出場チーム数

【Make Friends Cup in Fukui】
［参 加 校］藤島（3）神大附属（2）高志（1）高山西（1）富山国際（1）東海（1）虎姫（1）
富山中部（1）屋代（1）伊那北（1）守山（1）仁愛女子（1）聖マリア（1）
＊藤島の１チームはサプリとして参加
［団体成績］１位神大附属　２位藤島Ａ　３位藤島Ｂ　（下線の学校は全国大会出場権獲得）
［個人成績］１位岩佐美亜（藤島Ｂ）
２位志賀仁美（高西）金光悠良、吉田教勝（神大附属Ａ）笠島理乃（藤島Ａ）

【準備型】
［参 加 校］藤島（4）高志（3）勝山（2）武生（1）武生東（1）敦賀（1）若狭（2）
福井商業（1）仁愛女子（1）
［団体成績］１位藤島Ａ　２位藤島Ｃ　３位藤島Ｂ　４位武生　５位藤島Ｄ　６位高志Ｂ
（下線は全国大会出場へ）
［個人成績］１位赤田天汰（藤島Ａ）　２位岩佐美亜（藤島Ｂ）
３位新海壮次郎（高志Ｃ）石坂麟太郎（藤島Ｃ）

【即興型】 Sapphire 部門：経験者対象　Diamond 部門：初心者対象
Sapphire 部門参加　藤島（10）高志（5）金津（4）敦賀（1）武生（2）若狭（2）
仁愛（2）
Diamond 部門参加　敦賀（1）仁愛（2）武生（1）大野（4）丹生（1）武生東（2）
福井商業（2）若狭（1）福井（1）
［団体成績］Sapphire 部門　１位藤島Ｃ　２位藤島Ｄ　３位藤島Ｇ　高志Ｂ
［個人成績］１位小林侑良（藤島Ｃ）　２位生田開都（藤島Ｄ）　３位平泉裕理（藤島Ｃ）
［団体成績］Diamond 部門　１位福井商業Ｂ　２位仁愛Ｃ　３位大野Ｂ　工大福井Ｃ
［個人成績］１位宮田祢央　２位藪愛叶（福井商業Ｂ）
３位定兼涼子（福井商業Ｂ）青山渚月美（仁愛Ｄ）

＜令和４年度　英語ディベート委員＞

辻　智　生	敦賀高等学校
三　仙　真　也	藤島高等学校
木　下　　弥	奥越明成高等学校
笹　木　英　俊	金津高等学校
松　井　貴　昭	若狭東高等学校
西　川　智　康	高志高等学校